

八王子市子どもすこやか宣言普及啓発事業

# 平成24年度 はちおうじ 子どもミーティングの記録



## テーマ 『防災』

八王子市  
こども家庭部 生活安全部 教育委員会

# も く じ

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 八王子の未来を担う子どもたちとの出会い（八王子市長 石森 孝志） | 2  |
| 1. 「八王子市子どもすこやか宣言」と「子どもの権利条約」    | 3  |
| 2. 「子どもの意見表明権」の具体化に向けた取り組み       | 4  |
| 3. 参加者募集                         | 5  |
| 4. 子どもミーティングの流れ                  | 6  |
| 5. オリエンテーション&体験教室                | 7  |
| 6. 事前学習会                         | 10 |
| 7. 子どもミーティング                     | 11 |
| 8. 子どもたちの提案                      | 13 |
| 9. 子どもたちの提案ができるまで                | 15 |
| 10. 子どもたちの声（参加者感想文）              | 19 |
| 11. “振り返りの時間” から（学生サポーター感想文）     | 30 |
| 12. 学生サポーターの活動                   |    |
| ・子どもの活動と参加                       | 44 |
| ・子どもの参加を支える学生サポーター               | 45 |
| ・学生サポーターの研修                      | 46 |
| ・学生サポーターより                       | 48 |
| 13. 防災課からのメッセージ                  | 51 |
| 14. 子どもの意見表明のための児童館職員の関わり        | 52 |
| 15. 名簿                           | 55 |
| 子どもミーティングに協力していただいた方々            | 56 |

## 八王子の未来を担う子どもたちとの出会い

本年 8 月 26 日、「はちおうじ子どもミーティング」を八王子市役所内で開催いたしました。

4 回目となる今年のテーマは「防災」。平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災を機に、防災の重要性が再認識されておりますが、防災においては一人ひとりの意識が非常に大切であり、昨年の震災では個々の行動、日頃の備えや心構えが生死を分けたという事例は少なくありません。防災は私たちにとって切実なテーマであり、本市としても、市民の命を守るために大切な問題です。

昨年の震災から何を学ぶかが問われている中で、今年は公募で集まった小学 5 年生から中学 3 年生までの 23 名の子どもたちが子どもミーティングに参加し、防災について学び、真剣に考えてくれました。

子どもたちは、7 月 30 日のオリエンテーションと体験教室、8 月 6 日の事前学習会に取り組みました。

体験教室では、防災倉庫を見学して実際の備蓄状況を知り、また、起震車体験や給水車の水の試飲等を行ないました。夏の大変暑い中での活動でしたが、普段体験することの少ないこの機会に、子どもたちは五感を使って防災について学習しました。

事前学習会では、耐震構造物の大型模型を見ながら解説を聞いた後、これまで学び感じた思いを自分自身の考えとしてまとめるなど、入念な準備を行ないました。

こうした活動の成果として、8 月 26 日の子どもミーティングでは、22 名の子どもたちが、意見や提案を自らの言葉で発表しました。残念ながら当日参加できなかった子どもの意見も、学生サポーターが代読して伝えてくれました。

子どもたちは、市に整備を求める率直な意見をはじめ、自助・共助の大切さといった提案に至るまで様々な思いを、多くの方に見守られながら、一人ひとり堂々と発表しました。子どもたちの発表では、体験教室で得た経験や、事前学習会で学んだ成果が存分に発揮されており、防災という難しいテーマの中、充実した学習をしてきたことが伺えるものでした。また、私から投げ返した質問にも、子どもたちはしっかりと返答してくれました。私は、子どもたちの立派な姿に感心するとともに、子どもたちの意見を真剣に受け止め、できること、できないことを一つひとつ丁寧にお答えいたしました。

こうして子どもたちが自分自身の思いを堂々と伝えられたことが、子どもたちにとって大きな自信につながり、この経験を今後に役立てていただければ、大変うれしく思います。

今回、子どもミーティングを開催するにあたり、ご協力いただきました関係者の方々、そして、約 1 か月にわたり子どもたちを支えてくれた 26 名の学生サポーターの皆様に心から感謝を申し上げます。

平成 24 年 12 月

八王子市長 石森 孝志



## 1. 「八王子市子どもすこやか宣言」と

### 「子どもの権利条約」

「未来を担う子どもたちがみんな幸せに、そして責任あるおとなになってもらいたい。」「自然がたくさんある八王子でいきいきと生活し、自分の可能性を伸ばして欲しい。」「まわりの人と信頼しあえる関係を大切に、健康で個性豊かに成長して欲しい。」というのは、私たちの共通の願いです。

この願いを明文化し世界中の子どもが持っている権利を守る規範として、国連では「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）」が平成元年（1989年）に採択され、日本も平成6年（1994年）にこれを批准しました。ここでいう権利とは「人権」のことであり、人間としての尊厳をもつ社会の一員として扱われるべきであるという意味です。

八王子市では「子どもの権利条約」の考え方を取り入れながら、平成13年2月に「八王子市子どもすこやか宣言」を行ないました。

そして、平成13年度から平成19年度まで実施した「子ども会議」、平成20年度に実施した「子ども議会」、平成21年度からこれまで実施している「子どもミーティング」といった活動を通して、こうした考え方を広く市民の皆さんに知っていただく取り組みを行なってきました。

### 八王子市子どもすこやか宣言



- 1 わたしたちは、人にはみんな違いがあり、みんなよいところをもっていることを認めお互いに相手を尊重します。
- 1 わたしたちは、がまんすることの大切さを理解するとともに、好きなことに夢をもち元気にくらしします。
- 1 わたしたちは、しっかりと自分を表現し、自分の意見や行動に責任をもちます。
- 1 わたしたちは、子どもたち1人ひとりが大切にされ、安心して生活できる家庭を望みます。
- 1 わたしたちは、家庭や学校そして地域で学習する楽しさがわかり、自分の可能性を伸ばすことのできる環境を求めます。

平成13年2月4日 八王子市

## 2. 「子どもの意見表明権」の 具体化に向けた取り組み

子どもの権利条約は、大きく分けると「生きる権利」、「育つ権利」、「守られる権利」、「参加する権利」の4つに分けられます。そのうちの「参加する権利」に含まれるのが、「意見表明権」と言われる権利です。この「意見表明権」は、『子どもには自分に関係のあることについて自由に意見を表す権利があり、その意見は発達に応じて十分に考慮されなければならない』ことを規定しています。

そして、平成11年度に策定した「新地域福祉計画」や平成17年度に策定した「こども育成計画」をもとに、「意見表明権」を具体的に実現するための取り組みとして行なわれたのが、平成13年度から平成19年度の「子ども会議」、平成20年度の「子ども議会」であり、子ども議会をより身近な参加スタイルとしたものが、平成21年度からの「子どもミーティング」です。

このような取り組みを単なるイベントとして終わらせるのではなく、「意見発表の機会」を保障する継続的な事業としていくためには、「子どもが意見を表明する」という事業に対してのおとなの理解が不可欠です。

子どもに参加や発言の機会を作っても、その後の活動がおとなによって意図的に進められたものであっては意味がありません。子どもの活動はおとな側の仕掛けによって、“それらしく”できてしまうものであり、発言や結論を誘導することが可能だからです。形式的なだけの子どもたちの参加や発言では私たちの考える目的は果せません。



本市はこうした課題に取り組むため、おとなと子どもの間に入り、“子どもが子どもらしく”じっくり活動に取り組むために、彼らに寄り添う身近なお兄さん・お姉さんのような役割としての「学生サポーター」の育成、テーマに関わる市の所管課が協力する事前学習会、地域の中でテーマに関わる仕事をしている方や市民活動団体の方などの協力による体験教室など、子どもたちが見て、聞いて、感じて、友達と一緒にじっくり考え、自分の言葉で発言する、というスタイルをつくりました。

この報告集を通じて、子どもたちがたどった子どもミーティング本番までのプロセスを順に追っていただき、八王子市の「子どもの意見表明権」の具体化に向けた取り組みをご覧いただければと思います。

### 3. 参加者募集

#### 【テーマについて】

今年度は、「防災」をテーマにしました。

八王子市においても大きな影響のあった平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災をふまえて、改めて一人ひとりの意識が問われている「防災」。

八王子の将来を担う子どもたちの意見は大変貴重なものとなりました。

#### 【応募について】

参加者は昨年同様、市内在住・在学の小学 5 年生～中学 3 年生を対象に公募しました。応募する子どもには防災についての意見や質問を書いて送ってもらいましたが、どれも大変個性的なものでした。

#### 応募作文

##### 小学5年 小原 歩さん

昨年、東日本大震災がありました。

東北地方の人はもちろん、僕も怖い思いをしました。そして、防災について色々考える機会が増えました。

家では家具や電化製品が倒れないように工夫したり、いざというときに近くの南多摩高校に逃げる約束を家族としました。

学校では先生の指示に従って「おかしもち」のルールを守って逃げるように避難訓練をしています。

もし外で遊んでいるときには、近くのおとなの指示に従おうと思っています。

僕が子どもミーティングに参加したら、八王子市全体の災害対策について考えたいと思います。



昨年の大震災から多くのことを学んで、日々の生活に活かしていることが読み取れる作文です。

他の参加者の応募作文からも、子どもならではの視点や、市民の一人として役割を担いたいと、経験から自分の思いや考えをしっかりとって参加してくることが作文から読み取れました。

こうして市内在学・在住の小学 5 年生～中学 3 年生、23 名の応募者が参加することになり、今年子どもミーティングがスタートしました。



## 4. 子どもミーティングの流れ

### オリエンテーション＆体験教室

- 日程:平成 24 年 7 月 30 日(月)
- 場所:八王子市役所、市立第四中学校
- 内容:仲間づくり、子どもミーティングについての説明、ワークショップ体験、  
起震車体験、給水車・多機能車・ろ水機・無線室・防災機器・防災倉庫の見学、説明  
被災地支援についての話



### 事前学習会

- 日程:平成 24 年 8 月 6 日(月)
- 場所:学園都市センター
- 内容:午前 体験教室のふりかえり、防災課・建築課からの話  
午後 ワークショップ「防災について提案したいことをまとめよう」



### 子どもミーティング

- 日程:平成 24 年 8 月 26 日(日)
- 場所:八王子市役所 801・802 会議室
- 内容:午前 リハーサル  
午後 子どもミーティング



## 5. オリエンテーション&体験教室（7月30日）

子どもミーティング第1回目の活動となる7月30日の午前中は、「オリエンテーション」を行ないました。オリエンテーションの一番の目的は仲間づくり。子どもミーティングにおいて、みんなと話すことはとても重要です。それは、みんなと話すことで、自分一人では気付くことのできなかった発見につながるからです。参加した子どもたちは、ゲームを通じて他の参加者や学生サポーターと知り合い、話し合うことができました。

そして午後は「体験教室」です。体験教室は防災に関する機器の体験や説明、防災倉庫の見学、被災地支援に行った職員からのお話といった内容で実施しました。普段なかなか体験することのないこの機会に、参加者の子どもたちは興味が尽きない様子でした。実際に自分の目で見て、耳で聞いて、体で感じて、たくさんのことを体験しました。

### オリエンテーションの記録

今回で第4回目となる子どもミーティングは、オリエンテーションから始まりました。元気いっぱいな子どもたちを迎えて、楽しい一日の始まりです！

今年は市役所内にある、職員会館でオリエンテーションを行ないました。オリエンテーションで求められていることは2つあります。これから活動する内容を知ることと、一緒に活動する仲間と仲良くなることです。

子どもミーティングは子どもの社会参加を身近な形で表現できる八王子市ならではの活動です。まずはこのことを子どもたちに知ってもらいました。

そして一緒に活動する仲間と親睦を深める機会となるアイスブレイクを行ないました。アイスブレイクとは名前の通り、氷を砕くように緊張を解すことです。握手をして自己紹介をたくさんの人と行なうゲームをしたり、防災クイズやパズルゲームを行ないました。パズルゲームはチームワークが必要です。最初こそぎこちなかったものの、次第に子どもたち同士でも声を掛け合い、最後には完成させることができました！

連想ゲームも行ないました。テーマは夏休みといえど何っ！？です。様々な意見を付箋に書き出して、友達の見解と照らし合わせてみます。たくさんの意見の中で似たような意見や奇抜な意見などが挙がり盛り上がりました。様々な意見の中で自分の意見の見解を見定めるのに、とても有効な方法で、ワークショップと言います。その練習をゲーム感覚で行なうことができました。

このオリエンテーションを通して、子どもミーティングって面白そう！と子どもたちに期待してもらえていたら、とてもうれしく思います。

（学生サポーター 大学3年 土屋 大輔）



ゲームを通じて色々な人と関わりを持ちました。



ワークショップの練習もしました。



## 体験教室の記録（１）

今年の体験教室は、オリエンテーションと同日、八王子市役所に併設されている職員会館で行なわれました。みんながゲームや自己紹介で打ち解けた中、学生サポーターと子どもたちはテーブルごとにお昼ご飯を食べました。このお昼ご飯から、今年の体験教室は始まります。その日みんなが食べたのは、「アルファ化米」と呼ばれる、水を注ぐだけでできる米や、非常食としては有名な乾パンなどでした。彼らに味の感想を聞いてみたところ、思っていた以上に美味しかった！と好評でした。ですが同時に、非常時には十分な食事ができないというイメージが彼らの中にも少なからずあったということでもあるのでしょう。

続いて、一行は蝉の鳴き声が響きわたる炎天下の屋外へ。ハッキリ言って、子どもたちもあんな中外には出たくなかっただろうなと思います。でも、向かった先には彼らのうだるような暑さを吹き飛ばすものが用意されていました。

そこにあったのは、地震を疑似体験できる起震車やプールの水をろ過して飲めるようにするろ過装置、巨大なタンクを積んだ給水車と、学校の行事や催し物でしかお目にかかれなような車両や装置でした。子どもたちは実際に起震車に乗り込んで過去に起きた地震の揺れを疑似体験したり、ろ過装置を実施に動かしてみたり、ろ過された水や給水車の水を夏空の下で美味しそうに飲んでいました。プールの水が飲めるようになる、というのは子どもたちにとっても驚きだったようです。そんな中、一際子どもたちの注目を集めたのが、真っ赤なボディが炎天下には暑苦しい「宝くじ号」と名前の入った１台の車両。この宝くじ号とは、消防団多機能型車両と呼ばれるもので、中には自動車のドアも切断する電動カッターや巨大なペンチなど災害時の人命救助に役立つ様々な装備が積まれていました。これには、男の子（学生サポーター含め）は大興奮！実際に持たせてもらっていた子どもたちもいましたが、彼らはその装備の重さと消防団員の方々の筋肉を見てなにかに納得した様子でした。

その後、さらに一行は移動します。次に向かったのが、八王子市立第四中学校にある防災倉庫。中にはアルファ米や毛布などが多数。災害が起きてしまったとき、学校は避難所として機能するために備えているということがわかります。子どもたちとしては、自分たちが普段なにげなく過ごしている学校にこんな秘密が隠されていたのは驚きだったのではないのでしょうか。

再び、市役所に戻ってきた子どもたちは、職員会館の中にある体育館で、簡易トイレや毛布など防災倉庫に備えられていたものを実際に見たり触れたりして回りました。また、本来は関係者以外立ち入り禁止の無線室というところにも案内され、東日本大震災後に市内に流れていたアナウンスがそこからされていたことを知りました。また、この日案内をしてくれた防災課の中島さんが震災後のアナウンスでよく聞いていた声の人だったと知り、みんな驚いていたようです。

こうして、半日に及ぶ熱くて暑い体験教室が終わりました。その日の学習では、子どもたちもさることながら学生である僕らも学んだことが多く、有意義な時間になったと思っています。この体験教室が、子どもたちの中に防災に対する興味をより一層引き出して、以後の学習や提案書へ込める想いにつながっていったのだろうと考えています。

（学生サポーター 大学２年 山崎 航）

## 体験教室の記録（２）

お昼ご飯を食べ終わったらすぐに市役所の駐車場に降りて体験教室が始まりました。みんなオリエンテーションで少し気持ちがほぐれてきたらしく楽しそうに降りて行きました。

起震車では揺れが始まると車からいつの地震の再現かの音声が流れます。そのとき 1 人の子が、「この地震知ってる、この前調べてきたんだよ。」と言っていたのを聞いて、この子どもミーティングに対する気合いに感動しました。プールの水のろ過機の水の意外なまずさや給水車の水の意外な冷たさに皆、感動しているようでした。ろ過機の井戸のような使い方に驚いて順番にやってみたりと楽しそうです。消防団の人たちが教えて下さった災害が起こったときに使う救助道具の説明も興味深く聞いていて、質問もたくさんしていました。中学校の階段下にたくさんの食料や毛布が収納されていることにみんなと一緒に感動してしまいました。他にも市役所で普段見られないような災害用の無線室、避難所でつかう仮設トイレや怪我をした人用のベッドに直に触れて八王子の災害対策がどのようなものなのかを知ることができたと思います。

私も八王子に住んでいるものとして、貴重な体験をありがとうございました。

（学生サポーター 大学 1 年 上野 真弓）



お昼ごはんはにアルファ化米やカンパンなどの非常食を食べてから体験教室がスタートしました。



起震車体験では、実際に起きた地震の揺れを体験しました。予想以上の揺れに、みんな驚いたようです。



多機能車の説明です。本格的な機材がたくさん積まれた車両に、みんな興味をひかれました。



給水車から水分補給。暑い中の活動に、冷たい水がうれしいです。



ろ水機でろ過した水も飲んでみました。



市立第四中学校の防災倉庫を見学して、学校の備蓄状況を学びました。



市役所の無線室です。本来は関係者以外禁止の場所も見学しました。



最後に、被災地支援に行った道路事業部管理課の職員から、現地のお話を聞きました。現地の様子や体験したことを詳細に聞くことができ、大変貴重な機会となりました。

## 6. 事前学習会（8月6日）

この日の午前は、建築課から耐震工事のお話、防災課から防災に関する総括的なお話を聞きました。建築課による模型を使った耐震工事の説明には、子どもたちはもちろん、学生サポーターも興味を持って聞き入りました。防災課からは、日頃より市の防災に取り組んでいる職員による詳しい説明がされ、みんな真剣に耳を傾けていました。

そして午後はワークショップ。これまで体験教室や学習会で感じたこと、学んだことを提案としてまとめる仕上げの段階です。防災という難しいテーマに頭を悩ませながらも、学生サポーターと一緒に考え、ときには市の職員に質問をしながら、一人ひとりが自らの力で提案をまとめることができました。

### 事前学習会の記録

2回目の学習会ということで、「今日は何をやるのだろう」と期待を寄せ、あいにくの天気で雨にも負けず、ニコニコの笑顔で参加してくる子どもたちがたくさんいました。午前中は、市役所の防災課・建築課の担当者の方から、お話を聞くという内容のものでした。子どもたちの中には、お話の空気になかなか溶け込めていない人もいました。しかし、防災課の方から「昨年の地震の回数、今年の地震の回数って知っている??」という問いかけにより、固まっていた子どもたちも、少しずつお話の空気の中に溶け込めていくのが感じられました。ある小学生の男の子が「わかんない。ヒントないの?」と言い出すと、周りの子どもたちも次々に数字を出し合い、会場一体となり、問いかけに対して、真剣に考え、それぞれのグループで答えを出そうと取り組んでいる様子を見ることができました。建築課の担当者の方は、学校の校舎などには耐震補強がどのように組み込まれているのか模型を使用して、説明していました。子どもたちは、耐震補強の話は知っているけど、どのように組み込まれているのかを初めて知った様子で、楽しそうな表情を浮かべている子も多く見られました。また、大きな関心を持った様子で、真剣にメモなどをノートにとり、自分のものにしようとしている子も見られました。午前中のお話は、子どもたちにとって、初めて学ぶことも多くあり、とても有意義な時間になったのではないのでしょうか。

その後、お昼ご飯を学生サポーターと子どもたちと一緒に食べ、学んだことなどを共感し合い、午後、市長や教育長に提言するための意見を作るワークショップが始まりました。

ワークショップでは、学生サポーターがファシリテーター役を努め、グループ全体で意見を出し合い、話し合いをしました。各班で、進め方が異なり、それぞれの班の特色を表すことができました。今回の学習と、前回の体験学習をふまえて、子どもたちが市長や教育長にどのような意見を提言したいのかを考えることができた様子を見ることができました。なかなか自分の考えが思いつかず、悩んでいる子どもたちも多くいましたが、学生サポーターが子どもに寄り添い、一緒に考えることにより、子どもたちが自分なりの考えを持つことができたように感じました。

（学生サポーター 大学3年 笠原 萌花）



防災課職員からのお話。提案につながるアドバイスもいただきました。



建築課職員から模型を使った耐震工事についてのお話。



## 7. 子どもミーティング（8月26日）

ついに本番の日を迎えた子どもミーティング。子どもたちは午前中に集合し、リハーサルを行ないました。リハーサルでは入退場や各自の発表の方法、全体の進行の流れの確認をしました。

そしてお昼休憩を挟み、ついに本番です。午前中にはリラックスしていた様子の子どもたちも、本番を迎えると引き締まった面持ちに。大勢の来場者の前で、市長・教育長に一人ずつ提案を行なう子どもミーティング。この大舞台の中で子どもたちは一人ひとり、これまでの活動の集大成として、堂々と提案を発表してくれました。

そんな子どもたちの姿を見て、当日観覧にきてくださった方々からは、「自分の考えを自分の言葉で相手に伝えるように話していた。」「自分たちでできることは取り組むという人任せでない姿勢がよかった。」「思いつきでなく根拠に基づいた具体的な提言が数多くあり、説得力があった。」といった感想をいただきました。

### 子どもミーティング当日の記録（1）

#### 「挑戦」

様々な学習会で知識を得て、いよいよ子どもミーティング本番の日がやってきました。今回私たちは学生サポーターとして初めて参加し、子どもたちの発想力や自分の意見をしっかり伝えようとしている姿を見て、とても感動しました。自分が学習会で体験し、感じたことをただ「発表する」だけではなく、おとなたちの前で「発信する」「共感してもらう」ということは、大きなチャレンジだと思います。簡単にできることではありません。しかし、一人ひとりが今回のテーマである「防災」に対し、真剣に考え、八王子市をより良くするための対策を作り出していました。今回の子どもミーティングは、おとなには見えにくい視点からたくさんの意見が出て、改めて子どもたちの意見は大切だと感じる事ができました。

今回は、子どもたちを見守るだけではなく、先輩サポーターのように子どもたちの考えを引き出せるように頑張りたいです。

（学生サポーター 大学2年 白鳥 幸恵・高井 美貴）



控え室で原稿の最終確認。

子どもたちはみんな真剣です。



市長・教育長も、子どもたちの提案に対し、一人ひとりに向けて真剣に答えてくれました。



司会は学生サポーターの二人です。



みんな堂々と発表してくれました。

## 子どもミーティング当日の記録（２）

市役所の玄関から子どもたちの控室までの間、学生サポーターに誘導されてくる子どもたちの表情は十人十色。あるベテランの子どもは、手慣れたように読む原稿の修正をし、ある中学生は、「どうしよう。緊張するよ。」と青ざめた顔をしている子もいました。でも、ワークショップを一緒にやった子どもたちと話したり、学生サポーターと話をしたりしていくうちに皆、少しずつ緊張が解けている様子でした。リハーサルが始まり、職員の方の説明を聞く子どもたちは、すでに本番さながらの発言者の顔をしていました。

しかし、リハーサルが終わるとやはり小学５年生から中学３年生の子どもたちです。カメラに向かって走り出す子、学生サポーターの１人が作ってきたキャラクター弁当の写真を撮る子がいたり普通の子どもたちに戻っていました。

本番が近付き、子どもたちは学生サポーターと発表の練習を始めます。最初は「え〜。」っと嫌がりながらも皆、最後にはきちんと練習をし、学生サポーターからのアドバイスを聞いていました。その場面で、印象に残った子どもの一言があります。

「私たちのような子どもが、市役所の偉い人に意見を提案できるってすごいよね。がんばんなきゃいけないな。」

この子話を聞いて、私は驚き「そうだね。」としか返せませんでしたがとてもうれしい気持ちになりました。学生サポーターには保健係が作られていたのですが、そんな心配をよそに全員の子どもたちは控室から元気に会場に向かっていきました。

入場した子どもたちは、リハーサル以上に真剣な顔つきでした。市長や教育長、コーディネーターの言葉を聞き、メモしていました。３時間近くと長時間でしたが、皆集中していたように思います。

いざ、意見の提案が始まると驚くことがいくつもありました。それは、答弁の後にコーディネーターより「今の意見について何か考えたことはありますか？」と意見を言った子どもたち、ときには違う子どもたちに質問を投げ返した場面のこと。通常ならば、戸惑い言葉が上手く出てこないこともある場面です。そんな中、子どもたちは学生サポーターからマイクを受け取り、自分の意見を自分の言葉で発言していました。

「意見を言うには、子どもとはいえ責任が伴う。」

この言葉は、学生サポーターの研修中に出てきた言葉です。投げっぱなしではいけない。言いつぱなしではいけない。その場限りでは意味がない。正直、研修中は子どもたちには厳しいだろうと感じていましたが、この場面を目の当たりにしそんな考えを覆されました。それは、それほどまでに自分の意見について熟考し、他の子どもたちと意見交換をしながら意見を作成したからこそできたことだと私は感じました。

本番の締めくくりとして子どもたちの代表の言葉がありました。今年は、子ども議会（平成２０年度実施）の頃から参加してくれていた子どもたちでした。市役所の職員の方や学生サポーターの誰よりもこの事業に長く携わってくれている女の子２人です。５年間を振り返り一つ一つの思い出について話をしてくれ、「子どもミーティングにこれからも携わりたい。」「これからも続けてほしい」と言ってくれました。最後には、学生サポーターへのお礼の言葉を述べてくれ、その言葉に涙する学生サポーターもあり、今年の子どもミーティング本番はとても暖かい雰囲気のまま締めくくりとなりました。

（学生サポーター 大学３年 吉野 弘敏）



## 8. 子どもたちの提案 (五十音順)

子どもミーティングは子どもたち一人ひとりが主役です。発言は一人ずつ全員が行ないました。参加者はこれまでの活動を通じて、自分はどんな発言をしたいか何度も練り直して、質問や提案を行いました。また、子どもたちの発言には、すべて市長と教育長が答えました。

| 名 前    | 学 年 |    | 要 旨                                                                                                                                                                  |
|--------|-----|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 粟沢 尚也  | 小   | 6年 | 実際に避難所生活することになったとき、どのような行動、生活をすれば良いか、色々な不安がある。そこで、実際に学校の体育館を使って、子どものみの参加による一泊二日の避難所体験を、小・中・高校生対象で行なうと良いと思う。                                                          |
| 井川 哲   | 中   | 3年 | 災害時にはたくさんの費用がかかる。そのため、自分でできることとして、ポスター作成や家族会議で募金の重要性を知らせたり、募金活動と呼びかけたい。市には、企業や学校、新聞会社と連携して、募金の重要性を広く知ってもらうよう取り組むことと、災害前から資金を集め、災害時にすぐ使えるシステムを作してほしいと思う。              |
| 江原 夏美  | 中   | 3年 | 災害が起きたとき、訓練した内容を忘れたり、焦りでできなくなるかもしれない。そのようなことのないように、訓練は何度も行ないたい。また、地域の人とのコミュニケーションがあった方が活動しやすいので、地域の人と中学生が一緒に行ったほうが良い。一部の人が参加する訓練ではなく、町会、子ども会、クラブチームなども参加できる訓練が良いと思う。 |
| 岡松 めい子 | 中   | 1年 | 防災には日常の過ごし方が大切。家具の置き場所や、避難場所を再確認するよう呼びかけるポスターを学校で作り、街中に貼してほしい。                                                                                                       |
| 落合 真帆  | 中   | 1年 | 中学生になり、防災頭巾の用意が必須ではなくなったが、小学生のときに買った防災頭巾を中学生になっても学校に持っていき、災害に備えるべきだと思う。                                                                                              |
| 小原 歩   | 小   | 5年 | 東日本大震災では、原発が壊れて電気が足りなくなった。自分たちで電気を作るために、マンションや個人の家にソーラーパネルを付けたほうが良いと思う。設置には高額がかかるので、市で7割負担してほしい。                                                                     |
| 小原 怜   | 中   | 3年 | 高齢者や障害者でも避難できる方法はないかと思い学習会で質問したところ、「個別避難支援プラン」という計画を知った。しかし、その計画には個人情報の取り扱いについての問題があるということだった。「個別避難支援プラン」を推進し、避難が困難な人を少なくするために、部署の拡大と、プランの周知のためのパンフレットの作成・配布をしてほしい。  |
| 工藤 瞳   | 中   | 1年 | 学校や地域でも防災訓練を行っているが、それだけでは意識は高まらず、話を聞くだけでは分からない部分も多い。子どもミーティングの体験教室で、身体で感じて初めて知ったことがたくさんあった。だからもっと子どものときから意識を高め、災害が起きたときに協力し合えるように、体験授業を行なったほうが良い。                    |
| 車田 拓夢  | 中   | 2年 | 子どもミーティングに参加して、学校の校舎の補強に使われているブレースという設備を知った。学校の人たちに、生徒会新聞を利用して、ブレースについて知らせたい。                                                                                        |
| 雑賀 聖   | 中   | 2年 | 地震で橋が渡れなくなると、道が混雑して食料が配れなくなる。道が混雑すると、橋が崩れるのを防ぐために、道と橋の補強をしてほしい。例えば、混雑しないように道の数を増やすこと、橋のボルトを新しくしたり、今あるボルトを締めるなどの点検をしてほしい。                                             |
| 佐々木 茜  | 中   | 3年 | 八王子市から、できるだけ早く正確に必要な情報を伝えてほしい。市内の大学、民間企業、交通機関と強い結びつきを作ることと、インターネット社会を上手に利用することで、災害後の情報を広げるのに役立ててほしい。                                                                 |

| 名 前    | 学 年  | 要 旨                                                                                                                                                             |
|--------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 佐藤 千聖  | 中 1年 | 広報に、災害が起きたとき、赤ちゃんのおむつがなくなったときの代わりとなるものと、その付け方や離乳食の作り方、高齢者や体の不自由な人に役立つ情報を載せてほしい。<br>また、具体的に自分たちでできることを各家庭に配布すること、目に付く場所へ掲示することをお願いしたい。                           |
| 佐藤 優花  | 中 2年 | 子どもミーティングの体験教室で見た防災グッズは、説明を受けないと使い道が分からない可能性がある。災害が起きたあとに私たちが使用する道具についても訓練する必要があると思うので、避難グッズの説明会を開いてほしい。                                                        |
| 嶋崎 康介  | 中 2年 | 体の不自由な人でも、安全に通れる道が必要だと思う。<br>具体的には、アスファルトの道で、広くて、階段の少ない道。さらに、自動販売機を固定し、電柱を地中化したものが良いと思う。                                                                        |
| 高木 涼花  | 中 3年 | 中学生がおとなの代わりとなって、積極的に行動すべきである。<br>それを皆に伝えるために 1.防災の授業を行い何をすべきか考える 2.中学生向けの広報を発行する 3.色々な所に貼り紙を貼る 4.防災訓練を行う の4つを考えている。<br>これらのことを防災月間を設けて行ない、中学生の防災に対する意識を高めていきたい。 |
| 竹之内 実  | 小 6年 | 自助はもちろん、共助も大切。<br>今の自分に何ができるのか、具体的な知識や技術を身に付けたり、情報を貰うのも大切。<br>学校の時間の中で、何ができれば自分や周りの人が助かるのかを、もっと教えてほしい。                                                          |
| 津田 和奏  | 中 3年 | 計画停電を経験したとき、大変な思いをしたが、避難所生活はさらに大変だと思う。<br>避難所での生活を普段の生活に近づけるために、「重い」等の理由からなかなか家から持っていけない布団と毛布は倉庫に保管し、発電機を避難所に置いておくとうまいと思う。                                      |
| 中川 貴就  | 中 1年 | まず、自分で自分の身を守るために、家具の転倒防止器具等の準備、ヘルメットやラジオの用意をしておきたいと思う。<br>しかし、いくら家の中を安全にしても、家自体が壊れたら意味がなく、避難するときも危ない。<br>そこで、建築後に年月の経っている木造住宅やアパートには、補助を出して改築・補強してほしい。          |
| 永見 拓哉  | 中 2年 | 防災マップがいつ配られているのか知らなかったし、防災マップは字が細かく、目の悪い人には見にくいと思った。<br>各地域に限定したマップをコンビニや公共施設に置き、地域の人にマップの存在を知ってもらいたい。<br>各地域の地図を拡大し、避難所の物資の状況を細かく標記し、ポケットに入る大きさが良い。            |
| 橋本 咲帆  | 中 2年 | 教室の蛍光灯、体育館のバスケットゴールが落ちてしまいそうである。<br>学校の中にはまだまだ危険なところが多くあるので、点検・メンテナンスの管理の徹底をお願いしたい。                                                                             |
| 伴 風樹   | 中 2年 | 防災倉庫の場所を、出入口の近くに、通る道が広いところにしたほうが良いと思う。<br>そうすれば、物資を早く外に出せるし、一方通行にならず、障害物も避けて通ることができると思う。                                                                        |
| 平野 孔太郎 | 中 1年 | 学校を通して防災教育をもっと行ってほしい。話や映像だけでなく、実際に体験して覚えたほうが良い。<br>そうすれば、忘れずに災害時に活かせると思う。<br>例として、抜き打ちの避難訓練、防災テスト、社会科見学、防災備品を実際に使う、などを挙げる。                                      |
| 山中 美幸  | 中 3年 | 家庭でできる防災に役立つグッズを紹介したパンフレットを配布してほしい。<br>また、市の防災訓練の掲載記事が一目でわかるように、広報の1ページ目に大きな見出しをつけて、どんな内容が載っているかわかりやすく載せてほしい。                                                   |

## 9. 子どもたちの提案ができるまで

子どもたちは、先に紹介した提案を作り上げるまでに様々な活動を行ってきました。

オリエンテーションでたくさんの人と知り合うこと、体験教室で自分の目、耳、体で感じたこと、事前学習会で勉強したこと、すべてのことが子どもミーティングで発表した提案につながっています。

そして、これまでの活動で感じた思い、学んだことを提案としてまとめるために行なわれたのがワークショップです。ワークショップではグループに分かれ、学生サポーターが子どもたちと一緒に提案を考えました。

一緒に考える、といっても、「こうしたらいいと思うよ。」「こっちのほうがいいよ。」と、意見を誘導してしまっては、子どもたちの思いは出てきません。学生サポーターは子どもたちに対し、「どう思った?」「どうしたらいいと思う?」といったように、子どもたちの素直な思いを引き出すために、一生懸命子どもたちに寄り添いました。

子どもたちも、そんな学生サポーターと一緒に、一生懸命提案を考えてくれました。ここでは提案をまとめる際に行なったワークショップの進め方をご紹介します。

はちおうじ子どもミーティング


**宿題 防災についてこんなことを考えています!**

|       |    |
|-------|----|
| 学校・学年 | 名前 |
|-------|----|

※ みなさん、今日は暑い中、お疲れさまでした。たくさんの人と関わって、色々体験して、どう感じましたか? 感じたこと、考えていることを教えてください。

この宿題は、次回の活動（8月6日（月））のときに使います。

記入して、8月6日（月）の日に忘れずに持ってきてください。

1. オリエンテーション・体験教室をやってみて、あなたが感じたことを教えてください。
2. 「災害が起きる前、起きたとき、私はこんなことをしたい」「八王子の防災がこうなるといい」など、あなたが考える防災のイメージを教えてください。
3. 市役所には防災に詳しい職員がいます。あなたが相談できるとしたら何を聞いてみたいですか?
4. 子どもミーティングではあなたが市長や教育長と話します。どんなことを伝えたり提案してみたいですか?

（市長 ・ 教育長 ）どちらに提案してみたいですか? ○を付けてください。

事前にやってきた宿題を使って頭を整理。

## ワークショップの進め方の例 テーマ「防災」

- ① 自分が考えてきた「宿題」の発表…提案したいことについて一言
- ② 「防災」の課題って何だろう？…思ったことを付箋に書いてみよう

|                          |                       |                      |
|--------------------------|-----------------------|----------------------|
| 災害が起きたときの<br>対応はどうすればいいの | 壊れそうな建物がある            | お年寄りの安全を<br>守る必要がある  |
| いざというときの水や<br>食料は？       | 防災の意識が低い<br>のではないだろうか | 避難場所の周知が<br>行き届いていない |

- ③ 同じ仲間で集めよう

|                         |                     |                      |
|-------------------------|---------------------|----------------------|
| 災害が起きたときの<br>いざというときの水や | お年寄りの安全を<br>守る必要がある | 避難場所の周知が<br>行き届いていない |
| 防災の意識が低い<br>のではないだろうか   |                     | 壊れそうな建物がある           |

- ④ どうしたらいいのかを考えよう

|                          |                         |                     |
|--------------------------|-------------------------|---------------------|
| 避難訓練をやろう                 | 子どもや高齢者ごとに<br>避難対応を考えよう | 避難経路のマップを<br>作ろう    |
| いざというときに必要な<br>物のリストを作ろう | 学校の授業で<br>防災の勉強をしよう     | 危険な場所を<br>ピックアップしよう |

- ⑤ 同じ仲間で集めよう

|                          |                         |                                  |
|--------------------------|-------------------------|----------------------------------|
| 避難訓練をやろう                 | 子どもや高齢者ごとに<br>避難対応を考えよう | 避難経路のマップを<br>危険な場所を<br>ピックアップしよう |
| いざというときに必要な<br>物のリストを作ろう | 学校の授業で<br>防災の勉強をしよう     |                                  |

- ⑥ 自分達でできることは何？

ここが  
重要！

|                          |                          |                             |
|--------------------------|--------------------------|-----------------------------|
| 災害が起きたときのこと<br>を家族で話し合おう | 近くに住むお年寄りと<br>交流を深めよう    | 登下校のとき危険な建<br>物がいないかチェックしよう |
| いざというときに必要な<br>物のリストを作ろう | 近所の人たちと挨拶を<br>して知り合いになろう | 避難場所を調べて安全<br>な逃げ方を考えよう     |

- ⑦ 同じ仲間で集めよう

|                          |                          |                         |
|--------------------------|--------------------------|-------------------------|
| 災害が起きたときのこと              | 近くに住むお年寄りと               | 登下校のとき危険な建              |
| いざというときに必要な<br>物のリストを作ろう | 近所の人たちと挨拶を<br>して知り合いになろう | 避難場所を調べて安全<br>な逃げ方を考えよう |

(事前学習会でのワークショップの様子)



グループをつかって話し合い開始。



付箋をつかって意見を貼り出します。



貼り替えながらみんなの意見を整理。



だいぶまとまりました。



## ⑧ 子どもとして何から始めよう、何を提案しよう

こんなふうを考えたら…

- (ア) 身近なところから始められる(家で、学校で、地域で)
- (イ) みんなで取り組める(私が、家族が、地域の人が)
- (ウ) アピール性がある(「よし、やろう」と思える、「大切だ」ということが伝わる)



それぞれにタイトルをつけてみよう  
 「災害対策の家族会議を開こう」  
 「近所で挨拶運動を実施しよう」  
 「災害対策マップを作ろう」  
 など。

## 意見・提案の作成(個人作業)

- ① 話した内容をまとめる。
- ② 提案書に自分の意見をまとめてみる。



ここでできた提案書が、当日の提案のもとになります。

子どもミーティング2012

### 提案書

学校 学年 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

**防災について市長・教育長にこんなことを言いたい!**  
 みなさんは今日の学芸会を経て、いよいよ市長や教育長とお話することになります。  
 自分は何を言いたいのか、きちんと整理してみましょう。

( 市長 ・ 教育長 ) どちらに提案しようと考えていますか? マルを付けてください。  
 (※無難な内容によっては、マルを付けていないのが選ばれるかもしれません。)

■私が話すときは、数員の〇〇にします。(〇〇を書いてみましょう)

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

■二人ひと組を組めます。(理由も含め、具体的に書きましょう。本番ではこれを読んでいきます。)

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

※このシートは皆さんの当日の発言のもとになります。内容によって子どものしあわせ隊から事前アドバイスがあるかもしれません。  
 ※今日の最後に集まります(コピーしてみんなに回します)。

八王子市子どもしあわせ隊 子どもミーティング事務局 〒192-8501 八王子市元本郷町3-24-1  
 電話 042-630-7391 / FAX 042-637-7776 E-mail [hachioji@city.hachioji.tokyo.jp](mailto:hachioji@city.hachioji.tokyo.jp)  
 ※書き方がわからなかったら事務局に聞いてください。



どのグループのマップも個性的です。



最後は自分の意見をまとめます。

## はちおうじ子どもミーティング



2012. 8. 26



## 10. 子どもたちの声

終了後、参加した子どもたちから感想をもらいました。  
(感想文は基本的に書いてあるそのままの形で掲載しています。)



### 小学6年 栗沢 尚也さん

僕のはちおうじ子どもミーティングに参加した感想は、まあ楽しかったです。どんなところが楽しかったかというと、学生サポーターの人が優しくったりおもしろかったからです。どのようなところがおもしろかったかというと男子の学生なのにプリキュアのキャラ弁を作って持ってきたり、オリエンタルラジオのものまねをしてくれたりしたからです。

正直、市長・教育長に提案するよりも学生サポーターたちと過ごした時間の方がたくさんおもしろかったです。

教育長に提案するときは少し緊張したけれどしっかり言えたり、テレビにも映ったりしてよかったです。



### 中学3年 井川 哲さん 「子どもミーティングを終えて」

今回参加させて頂いた、子どもミーティングのような他校の小中学生たちと活動し合うことは、僕にとって初めての経験でした。

毎年話し合うテーマが違い、今年は「防災」についてでした。そこで、災害などについて自分の意見を発表し合えたことで、更にコミュニケーション能力もついたと思います。

市長さんや教育長さんとも、お話をさせていただき、本当に貴重な体験ができました。

僕たちを支えてくださった学生サポーターさんや、子どもミーティングを企画してくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。自分自身、大きく成長することができました。

またいつか、このような機会があれば積極的に参加したいと思います。



### 中学3年 江原 夏美さん 「ミーティングに参加してみて」

学校の先生に参加してほしい、と言われて何となく申し込んで参加をしました。どんなことをするのかも知らなかったほどです。

しかし参加をしてみるといろいろな方に出会えて、たくさんの経験をしました。学校内の人に意見を伝えることはあったけれど、他の学校の人に伝えることはないし、他校の人との交流もなか



ったけれど、今回たくさんの人と交流でき意見を伝えることもできました。

防災について改めて考えることもあったし初めて知ることもあったと思います。

今回の経験はこれから役立つと思うし、意見を伝えるときにも大丈夫って思うことができるようになりました。最初で最後だったけどもしも機会があれば学生サポーターとして参加したいなと思いました。参加することができてとても良かったです。ありがとうございました。



### 中学1年 岡松 めい子さん 「初日の貴重な時間」

私は今回の子どもミーティングでは、初日しか参加することができませんでした。初日は普段体験することができないことを体験したり、色々な人の話を聞きました。そのことはとても貴重な経験で、東日本大震災を身近に感じることができました。そして、そのときに私はできるだけ、東日本大震災で被災した人達に、関わっていきたいと思いました。節電、節水を心がけたり、募金活動をしったりしていこうと思いました。

2日目、3日目は、部活の試合で参加できませんでした。しかし、できるだけ子どもミーティングに関わりたかったため、意見を提出して市長・教育長に伝えました。

今回の子どもミーティングは1回しか参加できなかったため、次回、もし参加すれば、3日も参加したいです。



### 中学1年 落合 真帆さん 「子どもミーティングで学んだこと」

私は子どもミーティングに参加して、たくさんのことを学びました。

体験教室では起震車に乗って改めて地震の揺れの怖さを実感しました。

特に印象に残っていることは、一般の人が入ることのできない市役所の無線室に入ったことです。貴重な体験をすることができました。

そして、耐震のことなどについて理解を深めワークショップに取り組み、本番、教育長さんとミーティングをすることができました。

今回の子どもミーティングで八王子市では、防災対策がしっかりされていることが分かりました。今まで食料などが少量しか用意されていないと思っていましたが、たくさんの量があることを知り安心しました。そして自分にできる防災対策もしなくてはいけないと思いました。

おもしろい学生サポーターさんや違う学校の友達とも話すことができて楽しかったです。



### 小学5年 小原 歩さん 「緊張した本番」

現在、高校生の兄が最初に「子ども議会」に参加して、次に姉が「子どもミーティング」に参加したので、興味を持って僕も今年、参加しました。

1回目は「体験教室」で、まず市役所の人や大学生の人達と、コミュニケーションをとって、近くの学校の防災倉庫の中を見ました。そこで少し防災について考えることができたので、良かったです。

2回目は、サッカーの合宿と重なり、行けませんでした。(後で宿題が届きました。)

3回目は、「子どもミーティング本番」でした。市長、教育長、各学校の校長が集まった中で、1人ずつ発表しました。僕はソーラーパネルの補助金について提案し、緊張しました。

すべてが初体験でしたが、楽しかったので、また参加したいです。

### 中学3年 小原 怜さん

私は今回で3年目でした。そして私は今年でもう引退でした。少し振り返ってみようと思います。

そもそもなぜ子どもミーティングに参加しようと思ったかということ、兄が子ども議会の頃からやっていて毎年色々な所へ行って、色々な体験をして、とても楽しそうだなと思っていたからです。また、私は5年前、つまり子ども議会がちょうど始まった年に八王子へ引っ越してきたばかりで、八王子の地理や有名な所・物を知りませんでした。なので兄の話を聞き、参加して八王子を知ろうと思ったからです。

実際、参加してみて大学生のサポーターや他の子と関わることの楽しみを感じ、初めて回る八王子を充分過ぎるくらいガン見しました。発表するのも恥ずかしくて、滑舌も悪いので上手にできないことばかりでした。でも兄が言っていた通り、たくさんの経験ができたので良かったですと思っています。

特にこの3年間で記憶に残っているのは、ブルーベリー狩りと水質検査と今年の発表です。ブルーベリー狩りは、本当に楽しくてその場で食べてみて甘くておいしかったということが印象的でした。水質検査は、夕やけ小やけふれあいの里が1番楽しかったです。生物を探しつつも友達と水をかけ合って遊んでいました。何度もサポーターのよっしーに「気を付けて」や「れいちゃんやってるっ〜?」と声を掛けられたのもよく覚えています。また、よっしーに遊んでズボンが濡れているのを見られて、笑われたのも覚えています。ガキっぽくて落ちつきがない私を3年間頑張ってくれてありがとう、よっしー！他にもつつーやもきちを始め、すべての学生サポーターの人たち、本当にありがとう！もう書ききれないくらいいっぱい言いたいことだらけです。

来年からは弟が1人で参加すると思います。その時は、「また小原家かっ」と思っているといいので、よろしくお願いします。

最後になりましたが、この3年間私を面倒見てくれた学生サポーターの皆さん、市役所の方々、本当にありがとうございました。そして、今後もずっとこの会が続き八王子がより良い市になることを願っています。



### 中学1年 工藤 瞳さん 「子どもミーティングで学んだこと」

私が、子どもミーティングに参加するのは、今回が2回目でした。今回のテーマは、「防災」で、私は東日本大震災が起きた後あらためて深く考えさせ直されたことでした。

「防災」については、去年のテーマの「浅川」とは、違い、わからないことがたくさんありました。しかし、体験教室で防災倉庫にいたり、給水車の水を飲んでみたり、五感をつかって初めて知ったことがたくさんありました。そして、本番では、自分の言葉で自分の意見をしっかり教育長に言うことができました。

3日間とも、とても貴重な体験ができ、とても勉強になりました。来年も参加したいです。



### 中学2年 車田 拓夢 「子どもミーティング」

僕にとって子どもミーティングはとてもいい体験になりました。この体験を今後にいかしたいと思います。



### 中学2年 雑賀 聖さん 「子どもミーティングを終えて」

私は、この夏八王子市が企画して下さった、子どもミーティングに参加しました。

初日の体験教室は、個人的な用事と重なり不参加になってしまい残念でしたが、残りの2日間は参加することができました。

緊張の中参加してみると、八王子市では、建物をただ強くすることではなく、ブレースやスリットなど、私の気付かない色々な工夫がなされていることを知りました。

また、普通では到底体験などできない市長・教育長への意見発表をしました。

言葉では表すことのできないくらい緊張しましたが、とても貴重な夏の思い出になりました。



### 中学3年 佐々木 茜さん

“最後の”提言を終えた後、率直に思った感想は、「これが最後なんて、信じられない」というものでした。

小学5年生のとき、当時の「はちおうじ子ども議会」に参加したことがきっかけで、それから5年間、毎年参加してきていました。この子どもミーティングの一番の魅力は、市長と教育長が直に答弁して下さること、そして、大勢のおとなの前で、「子どもでも、自分の意見をきちんと伝えられる」という姿を見せられることです。事前学習と提言書をまとめることは、とても大変なことで、本番は何度経験しても、すごく緊張するのですが、発表後は達成感と充実感を得ることができる…私は、この子どもミーティングを通して、大きく成長させていただき、八王子市民として、八王子市に恩返しをすることができました。

今年の活動で最も印象に残っているのは事前学習第2回の提言書作りです。私は、事前学習第1回と午前中の学習活動を終えても、まだ自分が何をテーマにして伝えたいのか、見えていませんでした。

私は、提言書をまとめることがいかに大変かを分かっていたので、早く方向性を決めて、まとめに入りたいと思っていました。しかし、そう考えれば考える程、なかなか思っていることをまとめられなくなっていました。そんなとき、1対1で一緒に提言をまとめるのを手伝って下さっていたサポーターさんが、私には思いつかなかった切り口から、アドバイスを下さって、意見がまとまり始めたのです。その後、予定時間を1時間近く上回ったものの、意見を提言としてまとめることができました。そして後日、提言書にアドバイスが加えられて届いたので、補足のデータも入れて、万全の状態で大番に臨めました。私が八王子市の小中学生の代表として、ここで提言する機会は、もう2度とありません。だから、絶対自分自身に妥協したくありませんでした。5年分の感謝を、お世話になった全ての方々へ向けて、私なりに精一杯の発表をすることができました。

人生の中で、小中学生の5年間なんてほんの一部にしか過ぎません。けれど、私はその5年間で、ただ八王子市に住んでいるだけじゃできないことを、たくさん体験できました。ミシュラン三ツ星に輝いた高尾山を、より多くの人に訪れてもらうためにはどうすればいいかを考えたり、繁華街もある八王子市で、いかにして、地球温暖化防止やecoに取り組んでいけばいいかを悩んだり。八王子で地産地消や食の安全を守る農業を実践する方や、都内でも屈指の清流・浅川を保護する仕事をしている方に、お話を伺って、自分の住んでいる町への知識を高めることができました。もし、参加していなかったら、八王子に対する思い入れは、今程なかったと思うし、親切的な市役所の方々や、優しいサポーターさん、八王子市を支える方達には出会えませんでした。私は、この活動に参加することができて、八王子市に住んでいてよかったと、心から思いました。

最後に、今年の中学生参加者の大半の人は、“中学校で生徒会に入っている”等の学校推薦だったと聞きました。特に中学生にとっては、部活動や塾の夏期講習など、夏休みのうちのとても貴重な時間だったと思います。私の中学からも、参加者は私一人だけでした。子どもミーティング

に参加することは大変そうとか、難しそうと、よく友達に言われました。しかし、私は参加したことで、たくさんのかげかえのない経験を手に入れることができました。ぼーっとこのまちに暮らしていてもなれない、「八王子の中学生」になった気がします。来年度以降も子どもミーティングが開催されるのであれば、参加を考えている小中学生に、こう伝えたいです。「子どもミーティングは、大変なものでも難しいものでもない」と。「自分の考えている意見を、市長や教育長に聞いてもらえる、大きなチャンスなんだ」と。もっと多くの小中学生に参加していただき、八王子のことを考えてみるきっかけにさせていただけるよう、心から願っています。そして、また機会があれば、私にもお手伝いさせて下さい。本当に5年間ありがとうございました。



### 中学1年 佐藤 千聖さん 「子どもミーティングに参加して」

私は子どもミーティングに参加してみて、防災への意識が今までと変わりました。

1つは非常食についてです。私は、災害が起きたら避難所に行けば食べ物はあると思っていました。でも、実際に常備してあるのはたった3日分だけと知ってから、非常食はできる限り家に置いておこうと思いました。

また、ブレースについても意識が高まりました。私の中学校にブレースが付いているのかなんて考えたこともありませんでしたが、最近では他の学校のブレースの数を数えたりしてしまうほど意識が高まりました。

私は、子どもミーティングに参加して、このように防災への意識を高めることができたので、とても良かったです。



### 中学2年 佐藤 優花さん 「子どもミーティングを体験してみて」

私は先生に誘われて、子どもミーティングに参加することを決めましたが、最初は、少し嫌々で行っていました。しかし、1日目の体験教室から3日目のミーティングまで、とても楽しく、大学生サポーターのみなさんが話を盛りあげてくれたり、これはこうなんだよとわかりやすく教えてくれたり…。最初の嫌々な気持ちはいつの間にか飛んでいきました。

とくに1日目の体験教室は来るはずだった先輩がこれなくて、私自身とても緊張していました。でも、時間がたつにつれて、いろんな子が話しかけてくれたり、自分からも話しかけられるようになり、友達も増え、大学生サポーターの人とも仲良く話せるようになりました。

今回の体験は市長さんや教育長さんに意見を伝えられるという特別な体験をさせてもらえて、自分のためにもなったし、八王子の防災についての参考にしてもらえればいいと思っています。

次のミーティングがあったらまた参加したいので、そしたら、またよろしくお願いします。本当にありがとうございました。



### 中学2年 嶋崎 康介さん 「子どもミーティングに参加して」

僕は子どもミーティングに参加して楽しかったです。特に楽しかったことは体験教室です。体験教室では起震車に乗ったり、アルファ化米を食べたりと、普段できない体験ができたからです。

僕は初めて会った人と話すのが苦手でした。でも回数を重ねるにつれて話せるようになり、友達ができるようになりました。意見を伝えるときは先生や親など見に来た人が多くて緊張したけど、自分としては、はっきりと意見を伝えられたなと思います。他の人はとてもしっかりとした意見を持っているんだなと感じました。僕ももっとしっかりとした意見が考えられるようにしたいです。

今回のテーマである「防災」について参加をきっかけに、考えるようになりました。これからも考えていきたいです。サポーターの方や八王子市の子どものしあわせ課の方々にお世話になり、ありがとうございました。

### 中学3年 高木 涼花さん 「一生の思い出、子どもミーティング」

今回、子どもミーティングに参加させていただき、体験教室、グループワーク、耐震工事の学習、防災課の方からのお話などを通して、地震や自然災害の恐ろしさや災害が起きる前、後に私たちができること、八王子市の学校の耐震工事が進んでいること、八王子市でどれくらい地震が起きているか、など、書ききれない程、様々なことを知り、楽しみながら学ぶことができました。

そして、子どもミーティング当日には自分の思っていることを教育長さんに伝えられることができてとても嬉しかったです。これらの経験を通して防災に対する意識がさらに高まりました。そして、この経験を生かすため、六中学生徒会でも、防災週間の企画を行ない始めました。

子どものしあわせ課の方々や、学生サポーターの皆さんにはとても感謝しています。本当にありがとうございました。

### 小学6年 竹之内 実さん 「子どもミーティングを振り返って」

僕は、子どもミーティングに参加して色々なことを知ることができました。7月30日の体験学習の中には今まで見たことがないものやさわったことのないものもありました。例えば、起震車は学校で乗ったことがあります。給水車の水を飲んだのは初めてでした。その水が思ったより冷たくて驚きました。

8月6日の事前学習会に参加できなかったことは残念でしたが、26日のミーティングで他の

参加者の意見や八王子市の取り組みなどをたくさん聞くことができて良かったです。

僕は「共助」について学校でもっと教えてほしいと提案しました。それに対して教育長さんから、詳しい話をしてもらいました。

- ・東日本大震災の後、自助・共助・公助の割合が6：3：1から7：2：1になったこと。
- ・小学生のうちは自助が第一であること。
- ・中学校では、共助についても詳しく学習できること。

これらの話を聞いて、今はもっと自助について学習し、身に付けることが大切だと感じました。それと共に中学校での勉強がますます楽しみになりました。

今年は小学生最後の夏休みでしたが、「子どもミーティング」に参加できて、とても良かったです。来年は中学生として、また参加できたらうれしいです。



### 中学3年 津田 和奏さん 「子どもミーティングで学んだこと」

今、このミーティングをふり返って感じたのは達成感です。体験教室には参加できなかったけれど事前学習会に参加して、「なんとしても子どもミーティングを成功させたい。」という思いがとても強くなっていました。本番では、トップバッターを任せられ、とても緊張しました。ここでは、学生サポーターの方々が声をかけて下さり嬉しかったです。そのおかげもあって自分の意見をしっかり伝えることができました。

この2日間で、私は自分の言いたいことや疑問点などを相手に伝える大切さを学びました。学生サポーターの方々や市長、教育長に意見を伝えることができて本当に良かったです。防災について自分でも調べてみたいと思いました。ありがとうございました。



### 中学1年 中川 貴就さん 「子どもミーティングに参加して」

子どもミーティングを通して、防災は日ごろからの備えが大事だと感じました。市でも様々な取り組みをしていることが分かりましたが、やはり自分の身は自分で守るのが一番だと思うので、日頃から備えをして防災の意識を持って生活したいと思いました。今回は起震車に乗ったり、無線室の中を見学できたりと貴重な体験ができ、とても良かったです。ありがとうございました。

### 中学2年 永見 拓哉さん 「子どもミーティングで学んだこと」

今回、初めて子どもミーティングに参加しましたが、思っていたよりも内容が豊富で良かったです。最初の回では起震車や給水車など初めて見るものばかりで地震の揺れがどのくらいなのかがわかり、また身をもって体験することができたのでとても良かったです。

2回目では防災に関する知識を教えてもらい、防災の対策への考えを見直すことができました。

3回目では自分が考えた案を市長に伝え、回答をもらえたことがとてもうれしかったです。

子どもミーティングに参加して改めて防災への関心が深まりました。次回もできれば参加したいと思います。

### 中学2年 橋本 咲帆さん 「貴重な経験」

子どもミーティング。この活動を初めて耳にしたのは、夏休み前、学校の先生が、参加をしてみないかと、声をかけていただいたことからでした。

最初は、何をするのかよく分からなかったけれど、とりあえず参加してみることにしました。

第1回目の「体験教室」では、アルファ化米を食べたり、起震車に乗ったりと、普段はできない貴重な体験ができました。第2回目の「事前学習会」では、私達が通っている学校の耐震対策について学べました。校舎がちゃんと耐震されていることを知り、安心しました。また、本番で言う原稿や図を学生サポーターの方と一緒に作りました。困ったことがあっても、すぐに気軽に、相談ができて良かったです。

そして、「本番」。私が言った意見は、「教室の蛍光灯や体育館のバスケットゴールなどのまだまだ学校にある危険な箇所」についてです。私が、この意見を出してすぐ、私の通っている学校に点検をしにきていただきました。私の言った意見が、ちゃんと伝わり、少しは意味のある意見だったかなとうれしく思います。

私は、子どもミーティングに参加した後、自分の家の中は、ちゃんと防災してあるのか、たんすや食器棚の転倒防止について確認しました。また、非常時の食べ物や水などの準備もしました。意外と家の中にも、危険な箇所があるのを再確認できました。

最初は、何気なく参加した子どもミーティングでしたが、私の防災意識は以前に比べ高まったと思います。たった3回の活動ではありましたが、他校の人達の意見を聞いたり、交流を持つことができて良かったです。たくさんのことを学び、そして感じることでできた、私にとって有意義な夏休みでした。ありがとうございました。

### 中学2年 伴 風樹さん 「子どもミーティングを終えて」

僕は、中学2年の今回が初めての参加でした。3・11、東日本大震災が起きてから1年ぐらいたち、すっかり防災のことや地震へのことを忘れかけていたときにこの「子どもミーティング・防災」に参加することになりました。

僕は、このミーティングのおかげで防災など色々なことを思い出しました。やっぱり防災や地震があって被災地に被災者がいるということを忘れてはいけないと思います。このミーティングは思い出だけでなく防災で何をすべきか、何をしているのか、など災害時のいろいろなことを教えてもらえて、とても勉強になったと思います。来年も行けたら参加したいと思います。

### 中学1年 平野 孔太郎さん

1年半前、小学校5年生の時、僕もここ八王子で東日本大震災を体験しました。

この夏、子どもミーティングに参加経験のある兄、利希丸が、「子どもミーティングは楽しいし、勉強になるからやってみたら。」と勧めてくれたので、参加しました。そして、参加して学ぶまで、“防災”の大切さをちょっと忘れていました。

僕は、1回目の体験教室で衝撃を受けました。それは避難所で飲むことになるかもしれないブールの水をろ過した水でした。見た目はとても透明で、最近の技術はすごいなぁととても感心しましたが、その味は決して美味しいといえるものではありませんでした。このほかにも色々なことを経験することができました。八王子市に東日本大震災のような津波が来ることがないにしても、防災はとても重要なんだなとつくづく思いました。

そして、僕は、防災教育が大切だと思いました。これから大人になる僕たち小中学生が、十分な防災の知識を持っていれば、役に立つからです。将来、そのとき学んで得た知識を使うはずなので、興味や印象、体験を持つことによって、忘れずにいられるような防災教育がよいと思います。

とても良い勉強になりました。ありがとうございました。

### 中学3年 山中 美幸さん

5年前、学校でもらったチラシの1つにこんなものがありました。「はちおうじ子ども議会参加者募集」。市の子ども政策課からのものでした。今の言葉を聞いて「あれ？」と思う人がほとんどだと思います。このときはまだ、「子どものしあわせ課」という課はまだありません。なぜかは続



きを聞いていただければわかると思います。私は家で母とこのチラシを見てこんな会話をしたのを覚えています。

「参加する子どもを議員とし、大学生が秘書役としてサポートだって。おもしろそうだからやってみたら？」

「うん。じゃあ頑張ってやってみる！」

こんな会話がきっかけで5年間参加するとは思いませんでした。市内見学に行ったり、意見をまとめるために夕やけ小やけふれあいの里で合宿をしました。そこでテーマごとに委員会をつくり議題をまとめました。私はごみをテーマとした委員会に所属しました。そこは私以外中学生のお兄さんばかりでしたが、私も負けじと意見を言って原稿をまとめました。そして、エコバッグを議題としたエコバッグ推進委員会として本会議に臨みました。私は前半最後の委員会だったので、集中力の限界で自分の出番になっていることに同じ委員会に所属していた中学生のお兄さんに合図をもらうまで気が付きませんでした。議会が終わって報告会までの数か月の間に大きなできごとがありました。本会議で述べたことが採用され、子ども政策課から課の名前が変わり今の子どものしあわせ課となりました。報告会では子どもの意見を聞く場をこれからも作り続けて欲しいと意見がでました。この意見に基づいてできたのが子どもミーティングです。

2年目からその年その年でテーマが前もって決められるようになりました。

このときのテーマは「環境」でした。また、議会のときのように委員会として一つの意見をまとめるのではなく、一人ひとりの意見をのべるようになりました。意見は似ていても一人ひとり細かいところは違います。個人の意見まで述べられるようになってよかったのではないかと思います。この回で子どもミーティングのスタイルが確立されました。

3年目のテーマは農業・食について、4年目は浅川について、そして今年、5年目は防災についてでした。毎年テーマが異なります。特に、今年のテーマの防災は東日本大震災の影響で防災意識が強まっている中、とても良いテーマだと思います。私も今回がきっかけで防災について見直さなければならぬことがわかりました。少しでも八王子がよくなるように考えた意見ですので取り入れて頂けたらと思います。

今回の子どもミーティングを運営するにあたってたくさんの市の職員の方が携わって頂いたと思います。特に防災課や建築課の方々、そして何より子どものしあわせ課の方々と児童館職員の方々、ありがとうございました。学生サポーターの方々いつもそばでサポートして頂きありがとうございました。

最後にお願いがあります。これからも子どもミーティングを続けて下さい。早くサポーターとして戻ってきたいので高校生サポーターを作ってもらえないでしょうか。できたらすぐにサポーターをやりたいと思います。



## 1 1. “振り返りの時間” から（学生サポーター感想文）

学生サポーターは、今回の子どもミーティングに参加し子どもたちと関わる中で、多くのことを感じ、考え、お互いに話し合ってきました。

学生サポーターとして初参加となる学生はもちろん、経験のある学生も、子どもと関わる上で多くのことを悩み、考えました。それは、子どもの思いを引き出すために一人ひとりに寄り添い、異なった考えを持つ一人ひとりの意見を尊重しなければならないからです。

そこで学生サポーターは、子どもたちとの活動の後に、「こういう発見があった。」「こうすればもっと良いかも…。」「といった振り返りを行い、思いを共有しました。そうすることで、次の活動の際に共通の認識を持ち、より、一人ひとりに寄り添うことができました。

その様な取り組みを行い、子どもミーティングの活動を支えてくれた学生サポーターに、子どもミーティング全体を振り返って思ったこと、感じたことを書いてもらいました。



### 大学4年 稲葉 麻衣子 「4年間続けた活動」

私は、学生サポーターを大学4年間やらせていただきました。子どもミーティングを4回経験しましたが、そこに集まってきたメンバーで作り上げる子どもミーティングは、何度経験しても新鮮でした。参加者である子どもたちはもちろん、学生サポーターも毎年カラーが違っていたし、担当職員の方が変わったり市長や教育長が変わったことも、新鮮に感じられる要因だったと思います。

毎年構成メンバーが変わるし、ミーティングのテーマも変わるので、前年と同じように進めれば大丈夫と思っていても、何事もなくスムーズに終わる年なんてありませんでした。思い返せば、大学生になってから毎年、子どもミーティングのことで悶々とする時期が必ずありました。学生サポーターは、子どもたちの考えを引き出す役割を担っており、そのために子どもが考えを言いやすい環境とかきっかけ作りが必要です。しかし、子どもが考えを出しやすくするためにはどうしたらよいのかなんて、完全な正解はないと思います。だからこそ学生サポーターはどう在るべきか、という壁に何度もぶつかりました。それでもミーティング本番で子どもたちが立派に提案をしている姿を見る度にやってよかったと感じます。子どもたちの成長をそばで見られることは、本当に素晴らしいことです。

はちおうじ子どもミーティングは、私の学生時代の宝です。子どもたちからたくさんのことを学ばせていただきました。学生サポーターの皆さんからは、たくさんの気づきをもらいました。子どものしあわせ課の方々をはじめ、研修から今まで支えてくださった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

### 大学4年 上野 夏美

私は学生サポーターとして子どもミーティングに関わるのは今年で4回目になります。

今年は新しく学生サポーターになったメンバーがとても多かったことに加え、自分たちが一番上の学年になってしまい、今まで助けて下さった先輩方のいない中でどのように学生サポーターとして活動していけばいいのか本当に手探りの状況の1年間であったと思います。

今回は自分の就職試験などでなかなか子どもとの関わりに参加できなかったもので、自分は学生サポーターとして今年は一体何ができたのだろうと悩みました。

その中で私は新しい学生サポーターの育成に力を注ぐことを考えました。研修の充実を考えてみたり、何か教えられることはないかと試行錯誤し、メンバーを巻き込むこともありました。しかし、そうこうしている中で、もしかすると自分のやっていることは少しズレているのかもしれないと感じました。思えば、3年前に自分が初めて子どもミーティングに参加したときは何より子どもと関わること、うまく話せたときの喜びが一番でした。子どもと実際に関わらなければ学べないことの方が研修で学ぶことより多かったと感じていました。自分はシステムに固執し過ぎていなかったか？子どものことを忘れていなかったか？と考えるようになりました。学生サポーターの最大の魅力は何よりも子どもと関わる喜びです。それを教育という形でなく得られることは本当に貴重な経験です。それを今年は新たな角度から再確認できた年でした。こんな素敵な事業に関われたことを大変誇りに思います。

参加してくれた子どもたち、学生サポーターのメンバー、市の方々に改めて感謝したいです。本当にありがとうございました。

### 大学2年 梅田 紗希

何気なく読んでいた八王子広報の一角に目が留まった。「はちおうじ子どもミーティング学生サポーター募集」。教員志望だということもあり、子どもたちと関わる活動に参加してみたいと思っていた私にとっては願ったり叶ったりの内容で、記事を読み終わると同時に電話に飛びついたので覚えています。初めて研修会に参加したときは、初めてのことばかりで戸惑いはありましたが、徐々に学生サポーターのオープンな雰囲気に取り込まれていきました。

実際の子どもたちとの活動では、むしろサポーターの私の方が学ぶことが多く、20年間住み続けてきたのに、学校の防災倉庫のことや、ろ水器のことなど知らないことばかりで、地域のことを知る貴重な体験となりました。子どもたちとの活動を通して感じたことは、ファシリテート、併走することの難しさです。おとなが始めから教え込み、都合のいいように誘導することは簡単ですが、子どもたちから意見を引き出し、それを昇華させてあげるためにはどうしたらいいのか、本当に難しいことだなと感じました。しかし、子どもたちは私たちにはとても思いつかないよう

なユニークなアイデアを次から次へと出してくれ、驚きと新鮮さの連続でした。そして私の感覚も刺激され、そのアイデアに対する一言が自然と出てくるのです。お互いがお互いの刺激となる。これがファシリテートには大切なことだなと感じました。私の一言が誰かの刺激となり、新しい考えのきっかけとなっていてくれればうれしいです。

また子どもたちとの関わりだけではなく、市の職員の方との関わりのなかにも、学ぶことが多くありました。子どものしあわせ課の方はもちろん、防災課、建築課の方々、児童館職員の方など多くの協力があってこそ子どもミーティングだったのですが、働く姿を間近で見せていただいたことで、将来への視野が広がりました。防災という一つの分野をとってみても、こんなに多くの方が全力で取り組んでくれている、そういうことを目で感じ、耳で感じ、肌で感じ、全身で感じ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

たくさんのことを学び、たくさんの人とかかわることができた子どもミーティング、とても得るものが大きかったです。参加することができて、本当によかったと思っています。今回得たものをきちんと自分なりに消化・吸収し、自身の成長のエネルギーにできればと思っています。このように素晴らしい体験をさせてくださった市の職員の方をはじめ、児童館職員の方、サポーターの皆様、そして子どもたちに感謝したいと思います。ありがとうございました。



### 大学3年 笠原 萌花 「～はちおうじ子どもミーティングの活動にたずさわって～」

私が学生サポーターに参加したきっかけは、大学で先輩や、担当者の方に、「はちおうじ子どもミーティング」についての活動の様子を聞き、私も八王子ならではの活動や、子どもたちと関わる機会に触れてみたいと、強く思ったからです。

私自身、ボランティア活動に参加した経験がなかったため、不安が大きかったです。しかし、数多くの研修の中で、先輩方に学生サポーターの在り方や、子どもとの関わり方を教えてもらうことができ、自分も先輩方のようになりたいと思い、活動することができました。私が数多くの研修の中で一番苦労したのは、ワークショップの中でのファシリテーターの役割でした。私は初めて研修の中で、ワークショップを行なったときに、ただ単に、ファシリテーター役は、意見を引き出す役割であると思っていました。しかし研修の中で、学生サポーターは、子どもを誘導する役割ではなく、子どもに寄り添って活動する子どもの「伴走者」とであると学びました。その役割を果たすためには、ファシリテーターはただ単にグループをリードするだけではなく、グループ全体の雰囲気づくりや、時間配分、同じグループのメンバーの意見に気を配ることが大切であると感ずることができました。

本番では、ファシリテーター役を努める機会はありませんでしたが、子どもに寄り添い、ともに意見を考えることができたように感じました。

私はこの活動で学んだことを、これからの生活の中で活かすとともに、来年の活動で、今年よりもファシリテーターが上手くできるように活動していきたいと思っています。



### 大学3年 粕谷 幸代 「子どもミーティングに参加して感じたこと」

私は子どもミーティングの取り組みに学生サポーターとして参加させていただいて、今年は3年目でした。まだまだ上手くいかないことや、「あのときこう対応しておけばよかったのかな」と反省することなど多々ありましたが、研修や学習会、子どもミーティング本番で学んだことはたくさんありました。

研修では、子どもとの関わり方などを児童館の職員の方から教えていただいたり、ワークショップを進めるファシリテーターの役割について学んだりできて、とても勉強になりました。

今年初めて子どもと関わったのは、学習会の日でした。私は消極的な性格なので、子どもたちと会話することができるか不安でいっぱいでした。でも、当日子どもに「おはよう」と挨拶したら、元気に笑顔で返事してくれて、嬉しかったのと同時にほっとしたことを今でも覚えています。私のつたない助言にも真剣に耳を貸してくれた子どもたちに救われた場面も多々ありました。

子どもミーティング本番では、子どもたちの発言を聞いて、私では考えつかなかった意見が出ていて、「すごいな」と思いながら見ていました。

学生サポーターの活動では、普段学校では学べないことをたくさん勉強することができて良かったです。市役所や児童館の職員の方々、学生サポーターの方々、子どもたち、貴重な体験をありがとうございました。

### 大学2年 金澤 優希子 「学生ボランティアに参加して」

私はこの「はちおうじ子どもミーティング」に、学生ボランティアとして参加し、特に大切なことを学ばせていただきました。それは、「人は共存し合いながらまちを支えている」ということです。人は互いに学び合い、共に八王子というまちを考え、人や地域を育てる、このような、人として地域で暮らす基本ともいえるものを教えていただきました。

この子どもミーティングは、まず八王子に通学する大学生と八王子市職員の方々の交流から始まります。この交流会では、今年のテーマである「防災」について、防災専門の職員の方々から知識・経験を教えていただき、他大学生と共に防災について学びます。次に、子どもたちとの交流会では、今度は学生が主体となり、子どもたちと一緒に学びました。短い3か月間ではありますが、子ども・大学生・おとな（職員）が、この子どもミーティングという貴重な場で、八王子の防災について真剣に話し合い、意見を交わし合いました。ここに、人は互いに学び合い、共に八王子を考えるという「共生」を感じました。まちづくりは、決して一人で成せるものではないのです。夏休み子どもたちとの研修では、まちの消防に貢献している地域の方々のお話や起震車の体験など、長年に渡り地域の安全に尽くしておられる方々との出会いもありました。こうして影で支えられながら育ててもらっていることを、子どもたちと共に私自身も、肌で感じさせて

いただきました。

八王子のまちづくりにおいて大きな意味を果たす取り組みとして挙げられるのが、この子どもミーティングであると、私は今回参加してみて高く位置付けています。この八王子に住む全員が、住みやすいまち、と感じるよう実現するには、子ども・学生・おとななどの様々な立場の人が話し合い、それを身近な地域の方々と共有し、輪を広げる必要があるのではないのでしょうか。その発信源をこの子どもミーティングとし、この活動が多くの市民のために活かされる場となることを、共に考えさせていただきたいと思います。



### 大学4年 河瀬 昌昭

昨年は子どもと活動する回数が4回でしたが、今年は3回。私にとっては少なく感じましたが、初参加の方には『3回もあるの！？』という気持ちだったのでしょうか。慣れって怖いですね…(笑)

今年度は私にとって3年目となり、この活動の楽しさを改めて感じる年になりました。学生サポーターは基本的に活動前に研修を受け、市役所の指示で活動するボランティアです。でも活動が続いていると、指示されていないこともやりたくなってしまうんです！

今年度の活動では、場を盛り上げる為にジェスチャーゲームの小道具を用意したり、キャラ弁当を持参する人がいましたね！また、活動日以外でも学生サポーターが自主的にワークショップの練習をすることもありました。学生サポーターの私はボランティアですが、こうやって積極的に工夫して活動していくと楽しかったです！

この活動は世代の異なる3役(子ども・大学生・おとな)が揃って初めて実現する活動です。子どもが興味を抱いたことに対し、大学生は共に興味を抱き、子どもが意見書にまとめるサポートをする。そして提言された意見の中で、市長が実行すると判断したモノをおとなたちが実現していく。子どもの『興味』、大学生の『サポート』、おとなの『実行力』が合わさって『子どもミーティング』ができます。同世代の人としか関わらない学生生活をしていた私にとって、こういった活動はとても新鮮でした。

私たち学生サポーターの活動を見ていた子どもたちが、数年後に学生サポーターになっていたら嬉しいですね！数年後は立派な『おとな』として活動に顔を出せるように頑張ります！



### 大学2年 工藤 祐輔 「学生サポーターを通して」

今回初めて八王子市の学生サポーターを経験し、思った以上にやってみてよかったです。

元々、妹が去年参加した「子どもミーティング」でお手伝いする学生の役割を聞き、ユニークさを感じたことがきっかけです。そのユニークさとは指導者ではなく伴走者であるということです。そして、その学生は教育・福祉等の関連の大学 or 学部に通っている人が多いということで、

経営系の学部である自分として何かの刺激になればと思い、応募しました。

以前研修は正直覚えることが多いのかな等と硬いイメージがありましたが、まさに正反対。関連知識として真面目な内容もありましたが、大半が様々なゲーム。そこで学サボ関係者と交流ができ、実際に伴走者となるときシミュレーションの材料となるという面で勉強にもなります。

正直伴走者としては何もできなかったと自覚しています。他のサポーターと比べ、接待がなれておらず、逆に今年も参加している妹など2回以上参加している子どもたちの方がおとなに見えてしまいました。

冒頭で述べた「よかった」という具体的な内容について。1番はこれまでとは全く違う環境に触れられたこと、様々な方と交流ができたこと、今回のテーマである「防災」について1歩深く考えられたこと。それに加え、教育・福祉等の関連の文章を以前よりチェックするようになったこと、大学で現在学んでいる経営と教育・福祉等の諸学問との関連性を考えられるようになったこと（実際に数人の子ども関連の事業経営者と知り合えました）、最近始めた某テーマパークのアルバイトの理念が学サボとどこかマッチしている点があったことです。

正直、伴走者としても自信がまだありませんが、来年度も機会があれば、また経験してみたいです。今後もお手柔らかに関係者の皆さん、宜しくお願い致します。



### 大学2年 齊藤 由起 「子どもへの支え」

昨年から引き続き学生サポーターとして参加させていただいて、今年もまた新しい発見や出会いのあるものとなりました。今年は事前研修と、オリエンテーション・体験学習のみの参加でありましたが、テーマをもって人々と交流することは、とても有意義なものだと思いました。また、この子どもミーティングは、多くの方の協力があって成り立っているのだということを改めて感じました。

事前研修では少し身近で、でも遠い存在の『防災』について、私たちファシリテーターがどう子どもたちから意見や考えを引き出すか話し合いましたが、それはとても難しいものでした。学校で行なわれる防災訓練というもので、ある程度イメージが固められているため、私たち自身も更なる広がりにつなげることができず、悩みました。しかしそんなときには防災課の方々や児童館の方々から聞くお話が、新たな切り口を私たちに与えて下さいました。

体験学習では、子どもたちは目の前にあるものに興味津々で、非日常的なものに緊張しながらも新しいことをどんどん吸収していきました。緊急時に使う様々な道具が用意され、子どもたちは見たことの無いものに対して前向きに取り組んでいました。それらのこともまた、市役所の方々が子どもたちのために予定し、用意したものでした。

事前研修や体験学習を終えて思ったことは、私たちがやることも、市役所の方々がして下さることも、全てのことがちゃんと子どもミーティングに向かっているのだということでした。子どもたちは全ての人の協力というものをしっかり受け取って、吸収して、自分の意見を持つときの参考にします。なんて頼もしいことなのだろうと、私は思います。

子どもたちはこれほど頼もしく、協力して下さるおとなの方々もまた然り。来年度、学生サポーターの入れ替わりが多いことが今の心配です。私たち学生サポーターは、夏休みに子どもたちが突き進む道を一緒に走っていかなければなりません。中心は子どもであること、子どもための協力が求められること、などの意識を絶やすことなく来年度も活動を続けていきたいです。



### 大学4年 齊藤 良平 「子どもミーティングと学生サポーター」

子どもミーティングの主役は？と聞かれば言うまでもなく参加者である子どもたち！と答える。しかし、そんな子どもたちとともに共に活動し成長をしていく脇役が存在する。私はそんな学生サポーターについて書いてみたいと思う。

学生サポーターは子どもミーティングが円滑に行なわれ、かつ、子どもたちの活動を通じて得ることができる経験や学びを最大化できるよう共に悩み、共に行動する大学生たちであり、子どもたちから見ればちょっと年上のお兄さんお姉さんである。学生サポーターは市内在住・在学の大学生から公募で構成される。毎年続ける者もいれば新規参加者もあり、学部学科は問わない。

子どもミーティングが回数を重ねる毎に学生サポーター側も色々試行錯誤を繰り返してきた。子どもが成長するのはもちろんだが、折角だからサポーターも成長しよう！というわけだ。しかし、男女間の考えの違いや大学で学んでいることの違い、経験者と新規参加者の考えの違い等一筋縄で行かないことばかりである。例えば、連絡体制の整備をしようというだけでも喧々諤々の会議になってしまう。ただ、皆に共通する点がある。それは、この活動をより良く、子どもたちにとって有益なものにしたいという気持ちである。学生サポーターたちは常にこのことを頭の片隅に置いている。だからたくさん改善点が出てくるし、それまでも理由なく行動しているわけではないのでこれを変えようとする議論になるのである。先ほどの例で言えば、携帯電話やweb上でのコミュニケーションが増えれば面と向かってのコミュニケーションが減るのではないかという心配もあった。

学生サポーターは仲が良いのか悪いのかわからない。傍から見ていけばまさにそう見えるだろう。楽しく話していたと思えば次の瞬間には活動についての真剣な話し合いが開かれていたりする。しかし、私は、学生サポーターの間には仲が良いという次元を超えて信頼関係が築かれているのだと思う。相手の意見を批判するには信頼関係がなければできない。そして皆、意見を批判するのであって、相手を批判することはない。

私はこのような強い信頼関係を持つ仲間たちを誇りに思う。そして、参加してくれた子どもたちに少しでも何か役に立つことが残せたのであれば至福であるとともにこのような仲間たちとともに活動できて本当に幸せである。

最後に、長い間お世話になったので市役所の方々にもたくさんご迷惑をかけました。ありがとうございました。



参加者の子どもたちへ

普段みんなと楽しく活動していた学生サポーターのお兄さんお姉さんが怖い顔をして議論しているところを見せてあげたいなあと思ったこともあるよ。たくさんの人たちがみんなのことを真剣に考え、頭を悩ませています。困ったときは周りの信頼出来る人に相談してね。またまちで会ったら挨拶してください。それじゃまた！お元気で！



### 大学院2年 酒巻 由佳

私が学生サポーターを始め、今回で3回目の子どもミーティングとなり、私にとって最後の子どもミーティングでした。最後の子どもミーティングであることから、たくさん研修にも参加し、たくさん子どもたちと関わっていったらと思っていましたが、進路や学校の都合もあり、子どもたちと関わることができず、研修のみの参加となってしまいました。

研修の中では、学生サポーター自身が、子ども役と、ファシリテーター役に分かれ、今回のテーマである「災害」についてグループワークを行ないました。いざ自分たちがグループワークをしてみると、とても難しく、今回のミーティングは大丈夫かなあと不安を覚えました。

しかし、私の不安とは裏腹に、子どもたちはとても自由で良い意見が出て、子どもミーティングの本番も大変よかったと聞き、子どもたちのパワーを実感しました。将来、子どもたちが、高校生や大学生になった後も、子どもミーティングのときのように自由な発想で、自分の意見を言うことができ、そして周りの人の意見も受け入れられるようになっていって欲しいなと思います。

また、今回は学生サポーターにもパワーをととても感じました。他の学生サポーターが、自主的に研修を行なったり、各自がファシリテーターについて勉強したりと、自主性を持って子どもミーティングに参加している姿を見て、私も頑張ろうと大変刺激を受けました。こうした刺激をくれる仲間と共に学生サポーターができたことを、とても幸せに感じています。

最後になりますが、市役所の多くの職員の方々、参加してくれた子どもたち、保護者の方々、様々な人に支えられているこの子どもミーティングに関わり、多くのヒトと出会えたこと、多くの学びを得たことに感謝します。本当に貴重な機会を3年間、ありがとうございました。八王子市からこのような事業が全国に広まっていき、各地域で子どもが自由な発言ができ、大人がその意見に耳を傾ける機会が増えることを期待しております。



### 大学2年 清水 結子 「学生サポーターを振り返って」

私は、今年初めて学生サポーターに参加しました。子どもが好きで、将来は子どもと関わる仕事がしたいと考えていたので、私にとってはとてもプラスになると思ったので応募しました。でも、始めは何をしたらいいのかわからず、継続されている学生サポーターの皆さんに頼りきりでした。自分から前へ出ないと子どもたちともたくさん関われないなと思いました。継続されている学生サポーターの皆さんはこどもとの関わり方、話し方、アイスブレイクという言葉など、私の知らなかったことをたくさん教えてくれました。

子どもと交流する日は、とても緊張して子どもたちとうまく、たくさん話せるか不安でした。始めは班の皆さんの真似をしていましたが、私とペアだった女の子がとてもしっかりしていて、自分の主張したいことをたくさん話してくれて、私自身もたくさん考えて2人で作り上げることができました。

私は、発表当日は子どもたちの姿、学生サポーター皆さんの動きなどを見ることができませんでしたが、発表前の打ち合わせなど、これからの私に必要なことをたくさん学べました。初めて学生サポーターに入って少しでも私の頑張れたこと、心に残ったことを忘れず、これからも頑張りたいと思いました。



### 大学3年 玉城 雪乃

私は昨年からの学生サポーターをやらせていただき、今回は2度目の活動でした。昨年に比べ、子どもたちと一緒に活動する機会が減ってしまいましたが子どもたちとの活動はどれもが新しい発見であり、私にとって学びの宝庫でした。

今回のテーマは私自身とても難しいのではないかと感じていましたが、子どもたちはそれぞれの考えを持っており、改めて「子どもだからといって、見くびってはいけないな。」と痛感させられました。それは教職を目指している私にとって重要な気づきでした。今まで無意識のうちになんでも「子ども扱い」をしていました。しかし私たちが「子ども扱い」をしている限り、子どもの中に潜んでいる可能性を引出し、伸ばすことができません。子どもミーティングでは子どもを八王子に暮らす市民の一人として意見を求めています。はちおうじ子どもミーティングでは、子どもと関わる上で忘れてはいけないことをたくさん教えてくれました。また、学生サポーターは2年目ではありますが、子どもの考えをと引き出すことはとても難しく、今回も反省点は多くなってしまいましたが、昨年よりも子どもたちに寄り添うことができたのでよかったです。

学生サポーターでの体験はどれも貴重なものばかりで、教員志望である私に多くの学びを与えてくれたこの活動に参加できたことを嬉しく思います。市の職員の方をはじめ、児童館職員の方や学生サポーターの皆さん、そして参加した子どもたち、本当にありがとうございました。



### 大学3年 土屋 大輔

私が子どもミーティングに言いたい事は1つだけです。

最高の出逢いをありがとう。

新規サポーターの私を快く迎えて下さった市役所の方々。色々な事に時間を割いて教えてくれた先輩サポーターの方々。そして、しっかりと自分の意見を言えた子どもたち。

貴重な経験をすることができました。この子どもミーティングがあったからこそ、今の自分がいると自信を持って言えます！

この報告集を読んで下さっている学生の方々！是非一緒に青春の1ページを実りある物にしませんか！次回の子どもミーティングでお会いできることを楽しみにしています！



### 大学4年 松田ありさ 「学生サポーターを終えて」

4年間の活動を通して思うことは、小学生や中学生と関わることが心から嬉しくて、楽しいということでした。毎年、色々な性格の子どもと一緒に考えたり、悩んだり、遊んだりして少しずつ信頼関係ができていくこと、子どもの考えを整理する手助けができることなど、子どもと一緒に何かをやることに喜びを感じていました。活動の中で子どもと一緒に考えると、子どもは新たな発見をする、子ども自身が自分はこういうことを考えていたんだと理解する、そんなときの子どもの笑顔や嬉しそうな顔で、私も自然と笑顔になっていました。予想もしていなかった発言や意外にもしっかりとした意見をもっていたという驚きなども、子どもの面白さ、楽しさを感じさせてくれました。子どもミーティングという活動が、子どもと関わる仕事がしたいという確信さえつくってくれました。

私は、子どもミーティングで子どもが市長や教育長に意見を言えたことは、この活動の一番の成果であり、行政職員の方々や他の学生サポーターと活動に取り組むことができたことは、私の誇りだと思っています。4年間たくさんの楽しい出来事、困難がありましたが、一緒に乗り越えられたのは様々な助けがあったからです。この活動に参加させていただき、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

### 大学4年 森田 安紀子

私は今年が初めての学生サポーターでした。大学4年で初めての学生サポーターというのは珍しいかもしれません。私は、薬学部で、大学に通う毎日に忙しく気が付いたら4年生になっていました。そんなある日「大学生のうちに何か課外活動をしたい！！」と強く思いました。そんな私が広報を読んだのが子どもミーティングとの出会いでした。ちょうどバイトを通じて、子どもと関わってきたので私にもできるかも！と思い参加をきめました。

しかし、実際に学生サポーターをやってみると自分が思っていたよりも難しいなと思いました。「ファシリテーター」というものを私は今回の活動を通して初めて知ったのですが、子どもたちの自由な意見をつぶさないように、意見をまとめるサポートをするというのは、本当に難しかったです。さすがに先輩サポーターたちの皆さんの子どもたちとの関わり方は、とても自然で、すごいなぁと素直に思いましたし、私自身とても勉強になりました。初めて子どもたちと会う日はうまく接することができるか不安でしたが、子どもたちの方から楽しい話をしてくれたり、自分も中高生のころこんな感じだったなぁと思ったり…子どもたちと関わっているうちに楽しくなりました。市役所やその他職員の方々や学生サポーターの仲間の手助けがあったからこそ何とか私も子どもミーティングに関わることもできたのだと思います。

学生サポーターとして子どもたちの活動をみていて感じたのは、「子どもだ」と思って接するのではなく、対等に意見を交わすつもりで接することが大切だということです。実際、子どもと言っても、もうしっかり自分の意見を持っていました。今回は「防災」という、とても難しいテーマでしたが、一人ひとりが自分の意見をしっかり持っており、学習会を通して意見を深めていたようでした。もちろん、最初から意見がまとまるわけではなく、論点がずれたり、グループとして意見をまとめていくのに苦労したりしたと思いますが、最終的に意見をまとめ上げて、子どもミーティング本番で発表をしていた様子はおとな顔負けで、感動しました。子どもたちの発表に少しでも関われたことがうれしかったです。

大学が忙しく、学生サポーターとしてすべての活動に参加することはできませんでしたが、学生サポーターと市役所の方々との研修会や、学生サポーター同士での自主研修会、子どもミーティングのワークショップと本番に参加できたことは私の中で貴重な体験であり、財産となりました。

### 大学4年 安野 果歩

3回目の子どもミーティングでした。私は子どもミーティングで、他大学の学生と出会うことができる、子どもと一緒に活動ができるという魅力を感じています。

ミーティングをするのに、市役所の方も学生サポーターも子どもたちの意見を引き出すために



たくさんの準備をしますし、子どもたちもそれぞれにテーマについて真剣に考えます。今回、子どもたちと活動して一番強く感じたことは、「誰もが意欲をもっている」ということです。子どもたちはそれぞれの理由・きっかけで参加してきます。積極的に参加する子もいますが、集中しない子や面倒くさそうにしている子もいます。その中で、学生サポーターやおとなの働きかけによって子どもたちの意欲が高まったり、テーマについて考え始めたりするのです。最終的には、子どもの考えたことや提案、発表する態度も素晴らしいものでした。誰もが「やりたい！」や「やってみよう！」と意欲をもっている証拠だと思います。やはり子どもがもつエネルギーや意欲には感動します。

また、子どもたちの意欲を引き出し、伴走者として活動する学生サポーターの役割の重要性も感じました。サポーターが子どもにどう働きかけるかによって、子どもたちのやる気や提案内容も大きく変わったと思います。みんな、「子どもにとって何が良いのか」、「何をすべきか」などをたくさん話し合い活動に取り組みました。学生同士がまとまれるように自主研修の機会を設けたり、メーリングリストでの情報共有など「子どもたちのために」と学生が自ら行なうこともありました。

私自身、学生サポーターとして子どもたちに何かできたのだろうかと不安がいっぱいです。関係を築きたい、というので精一杯でした。ですが、楽しく！笑顔で！を忘れずに子どもたちと関わることができました。

私は学生サポーターの活動を通して、周りの学生サポーターの意識の高さと行動力に毎回驚いていました。皆の情熱に私はとても刺激を受けていました。本当に皆の考えや行動力はすごいです。あまり自分のことを出すことができないでいましたが、今年は一番自分を出すことができました。楽しい活動でした。そう思うことができるのは、市役所の方々、子どもたちと学生サポーターのみんなのおかげです。ありがとうございました。

これからも、子どもミーティングがより良い活動になりますように！



### 大学2年 山崎 航 「子どもとともに、成長できた自分がいた」

この学生サポーターとしての活動は、僕にとっては刺激的でした。子どもたちとの、「共に考える」というこの活動は、僕の子どもたちとの接し方を大きく変えました。

僕は、7人兄弟の長男です。弟妹たちとの生活を通して、子どもたちと接することは僕にとって日常と化していました。そのような背景もあり、学生サポーターに参加を決めたときは、自分にはそれほど難しいものではないだろうと高を括っていました。

正直に言って、なめてました。目の前にそのときの自分がいたら、張り倒したいですね。学生サポーターとして子どもたちと接して見えてきたのは、子どもたちの「遊びモード」以外の顔です。起震車や防災倉庫を見たときの「興味津々モード」、防災課の方々から話を聞いているときの「学びモード」、ワークショップをやっているときの「思考モード」、意見書を書いているときの「自己表現モード」、たった3回の子どもたちとの活動だけでも、彼らの様々な顔が見てとれま

した。ボール片手に校庭を駆けずり回るだけが子どもじゃない、テレビゲームにみんなで熱中するだけが子どもじゃない、そんな当たり前のことに改めて気づかされました。

しかしながら、それだけだったら僕はこの学生サポーターでの活動を刺激的とは言わなかったでしょう。僕が子どもたちとの活動で最も感じたこと。それは、子どもたちと同じ目線に立ち、共に活動をしていく上で見えてきた、子どもたちのポテンシャルの高さです。着眼点、発想力、独創性など、様々な面で僕ら大学生も顔負けのセンスを光らせていました。子どもといえば真っ先に結びつくイメージが「未成熟」であった僕にとって、彼ら一人ひとりに垣間見えるポテンシャルは驚くほかありませんでした。

そこにいた彼らは、もはや一つの人格でした。そんな彼らのそばにいた僕は、子どもたち一人ひとりを「子どもだから」というフィルターを、いつの間にか介さずに見ていました。年齢など関係なく、一つの人格として彼らを見ることができたこの感覚は、それ以後の子どもたちとの関わり方を大きく変えてしまいました。自分の中で子どもたちから受けた刺激が、自分自身を成長させてくれたのだと確信しています。

そんな子どもたちも僕ら学生サポーターからなにか刺激を受け、成長してくれていることを切に願います。学生サポーター、子どもたち、双方ともに大きな財産となりうるこの活動に参加できたことをうれしく思います。この活動を行なうにあたり、支えてくださった方々に感謝するとともに、来年もこの活動のさらなる発展を目指していきたいです。



### 大学3年 吉野 弘敏

私の学生サポーターとしての活動も3年目となりました。数少ない男子サポーターの中で、昨年末盛大に卒業され見送られていった尊敬している先輩が出戻りされ、今年もサポーターとして活動されると聞いて、衝撃を受けたスタートアップ研修からスタートしました。

そのときに決めた目標が2つありました。

1つは、新規サポーターについてのことです。私が1年目だった3年前のときは、周りの先輩方についていくので一杯で何もできなかったと悔しい思いをしました。その悔しい思いをした大きな理由は、先輩方が常に上を見続けて怠らなかった「より良くする努力」の仲間の一員になれず、見ているだけで進んでいったと感じたことでした。

そこで、今年の新規サポーターにはしっかりと「より良くする努力」仲間入りしてもらい、活動を終えたとき何もできなかったと悔しい思いをしてほしくないと感じ、自主研修や遊ぶことも多く取り入れていました。学生サポーターの中でも、教職を目指しているために子どもと関わることをしたかった人、市役所の仕事に興味があったなどと参加目的は人それぞれです。その違いにかなり戸惑いを感じた部分がありました。しかし、全員までには届きませんでしたが、少しは仲間入りの助長ができたのではないかと感じています。

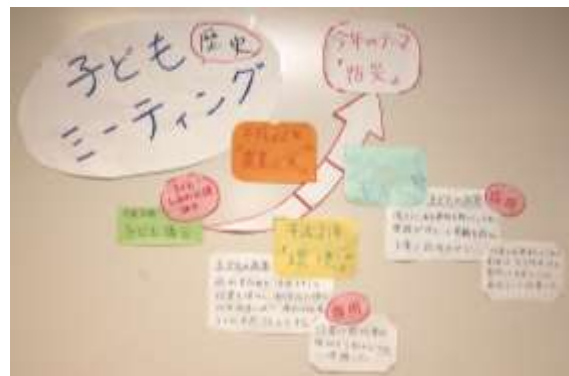
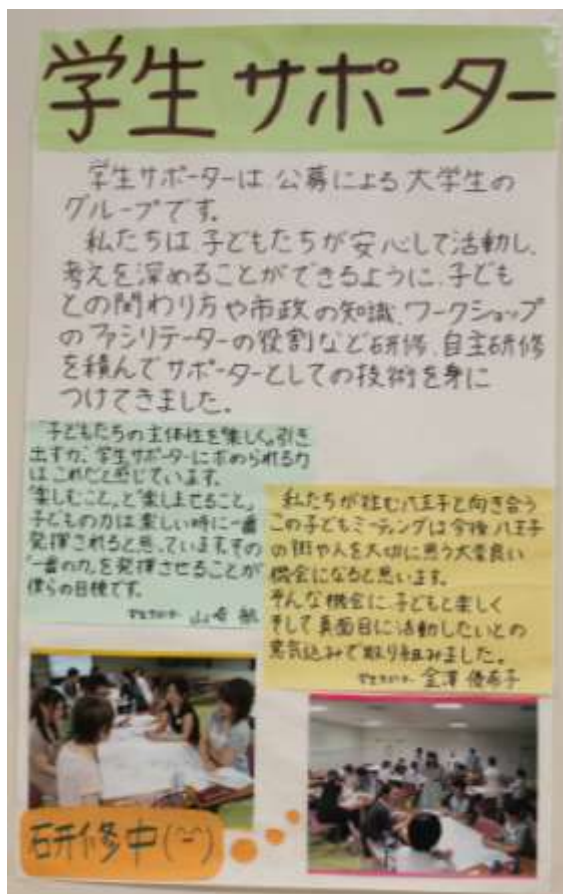
2つ目は、「子どもに一番近いサポーター」になることです。今年は、これまでのように活動自体にすべて出席できていたわけではなかったもので、参加しているときに極力心がけていました。

たくさん子どもたちに声をかけ、せっかくの機会ですので皆のことを少しでも知りたいと思いたくさん話すことを目標としていました。そのため、本番の日にはずっと控室にいて子どもたちと関わっていました。少し足りなかった部分もあるかと思いますが、そのように取り組んでよかったと思ったこともありました。

本人の感想の中にもありますが、昨年より私が子どもと関わる活動をするときに殆ど一緒のグループになることが多かった子がいます。小原怜さんです。今年もワークショップの担当は、ずっと話すことが多かった自分だからこそできることもあるのではと思い、小原さんの担当になりました。意見を考える過程のとき、2人で2時間近く話をしていました。小原さんは、その場で自分が考えた意見に対して、現在、市としてどのような対応がとられているか担当課の方に聞き、そこから何故自分が理想とする姿に近づかないか、原因を考え対策を考えそれについて提案をしていました。自分が中学生の時にそんなことができたかと考えると、本当に凄いと感じました。

子どもミーティング本番が終わっても、学生サポーターの活動は続きます。今、手に取っている報告書の作成です。そのとき、小原さんの感想を読みますと子どもミーティングの思い出の中に、私の名前を挙げ述べてくれていました。本当にうれしく、子どもミーティングに関わってきてよかったと感じた瞬間でありました。ありがとう。

学生サポーターをやっていると、子どもたちは勿論のこと、学生サポーター・職員の方からもたくさんのことを学び経験することができます。この環境に学生の立場から携われていることに感謝し、来年の活動を迎え「より良くする努力」を学生サポーター全員で進めていけるよう努力していきたいと思います。



子どもミーティング当日に、会場に掲示したこれらの掲示物も、学生サポーターが自ら作ってくれました。

## 12. 学生サポーターの活動

### 子どもの活動と参加

「元気なまち はちおうじ」を目指す本市が、「活力があるまち」「人が住みたいと思うまち」と考えたとき、子どもという存在は不可欠ですが、子どもは八王子に住みたいと思っているのでしょうか？このまちに愛着があるのでしょうか？おとなになった時またこのまちで暮らしたいのでしょうか？

市は「小さな市民」のためにどんな機会を与え、市民としての意識を育ててきているのでしょうか？

「**子どもの権利条約**」は、子ども自身が権利の主体であることを明確にし、おとなと同等に市民としての積極的な社会参加を行うことを保障するものです。ここでの重要な視点が第12条の「子どもの意見表明権」です。そこには「自己の意見をまとめる能力のある子どもに対して、その子どもに影響を与えるすべての事柄について、自由に自己の見解を表明する権利を保障し、かつ、子どもの意見は、その年齢および成熟度に従い、適正に重視されなければならない。」と記されています。これは、子ども自身が生活や生きることについて「自己決定を行う権利」です。

その点から**子ども議会**や**子どもミーティング**を単なるイベントとしてではなく、「子ども参加」の権利を保障するものであり、子どもの自立のプロセスに関わるものであるという考え方を、取り組みに関わるすべてのおとなが理解する必要があります。

子どもに機会をつくっても、「子ども参加」がおとなによって意図的に仕組まれたものであっても意味がありません。子どもの活動はおとな側の仕掛けによって、“それらしくできてしまうもの”であり、発言や結論を誘導することが可能だからです。実際、子どもの関わる活動には「子どもの意見も聞きました」的な参加とも受け取れる場面もまだまだあるように思えます。

**子ども議会、子どもミーティング**は、こうした課題に取り組んできた他市のすぐれた事例を参考にしたり、実際に活動を手がけた方にアドバイスしてもらいながら、おとなと子どもの間に入る「学生サポーター」を育成、彼らによる活動支援を行ないました。研修では、子ども観や市の子どもの施策と合わせて、子どもの活動支援はどうあるべきか、ということが議論されました。このことは、自分がどんな役割を持ち、どのように子どもの活動と向き合っていくのかを問うことでもあります。直接子どもと関わる以上、その対応がまちまちであったり、共通理解のないままに活動が進められることや、中には活動当日だけに参加するという人がいることには活動全体に大きなリスクがあるのです。

学生サポーターにも、いくつかの段階があります。たとえば活動当日だけに参加する「**いるだけ**」レベルは、活動の運営上も言われたとおりに行動するという形にならざるを得ません。何が子どもにとっていいことなのかを考えながら関わる「**自分から進んで**」レベル、さらには子どもの自立のプロセスに寄り添う「**伴走者**」レベルにはサポーターとしての学習が不可欠です。この点において、彼らは事前に何度も研修を行い、活動の前に綿密な打ち合わせとサポーター同士の意見交換を行うことで、活動に参加する子どもたちの伴走者としての役目を果たしました。彼らの書いた「**振り返り**」を読んでいただければ、子どもを支えるという目的で集まっていながらも、その子どもたちとの出会いによって短期間で着実にサポーター自身が成長している、ということに気づいていただけたと思います。



このような継続的で丁寧な活動の上に成り立った学生サポーターと子どもたちの育んだ信頼関係に支えられて、今日の私たちの「子どもの参加」活動があるのです。

自分の住むまちについて「リアルに」知ること(どうなってるの?)、疑問に感じる事(どうしてそうなの?)、働きかけること(こうしたらいいと思う)に子どもが取り組むことは、「**子どもも市民である**」という行政の自覚であり、**5年後10年後には確実に一人のおとなとなる次世代に対しての基礎自治体の責任でもあります。**

市はこれらの取り組みの評価を踏まえ、子どもの目線を大切に、市民としての「子どもの参加」の活動に取り組んでいく必要があると考えます。

### 子どもの参加を支える学生サポーター

**学生サポーター**は子どもミーティングを支えた公募による大学生のグループです。子どもを支える援助者となって活躍してもらえよう、子どもとの関わり方や市政の知識、ワークショップでのファシリテーターの役割などの研修を積み、サポーターとしてのスキルを身につけてきました。知識やテクニックはもちろんですが、実際に活動に参加しながら「子どもにとって何が大切か」「私たちは何ができるのか」を感じとることのできる、頼もしいお兄さんお姉さんでした。彼らがいなければ子どもミーティングの実現は難しかったでしょう。



## 学生サポーターの研修

| 回数  | 実施日      | 内容                                                      |
|-----|----------|---------------------------------------------------------|
| 第1回 | 5月24日(木) | 「アイスブレイク」「子どもミーティング・学生サポーターとは」「防災についての基礎知識」「子どもについて知ろう」 |
| 第2回 | 6月22日(金) | 「アイスブレイク第2段」「グループワークを経験しよう」                             |
| 第3回 | 7月 5日(木) | 「ワークショップ実践」「ファシリテーションと子どもとの接し方」                         |
| 第4回 | 7月17日(火) | 「研修総括」「子どもの安全管理について」「これからの活動内容について」                     |
| 第5回 | 8月10日(金) | 「子どもミーティング本番の役割分担について」                                  |

学生サポーターは、子どもたちを万全な状態で迎えるために、数多くの研修を行ってきました。「子どもミーティングでどんな役割を担ったらいいのか」「子どもとどう接したらいいの?」「ファシリテーションって何?」「防災について詳しく知っておきたい」など、学生サポーターにもたくさんの不安がありました。これらの不安を一つひとつ解消していくために、学生サポーターは真剣に悩み、話し合いながら、ときには自主的に研修会を開催して、子どもたちを出迎える準備をしてきました。このように彼らが「学生サポーター」をお手伝いではなく、「自分の役割」として捉えて準備をしてこなれば、子どもたちが安心して子どもミーティングに参加できる環境、自分の意見を伝えることのできる環境は整わなかったでしょう。

ここでは、そんな学生サポーターが研修に対して感じた思いをご紹介します。

### 学生サポーター研修の記録(1)

#### 「研修で得たこと」

第1回学生サポーター研修会、今年初めて参加した私は、わからないことばかりでとても緊張していました。1回目はアイスブレイクを通して初対面の人とどのように打ち解けあうのか、学生サポーターとして子どもたちとの関わり方について学びました。当然、子どもたちも初めて顔を合わせるときにはとても緊張しています。そこで緊張をほぐし、自分を解放しやすくする環境作りが大切になります。私自身、初めてアイスブレイクを体験して初対面の人とも恐れず話をすることができました。こうした研修での経験や気付きを基に、学生サポーターは子どもたちと関わっていきます。

子どもたちが意見をまとめるにあたって重要なのがワークショップです。ここでは、私たち学生はファシリテーターとして子どもたちの意見を引き出していきます。ファシリテーターは話し合いを促進するための伴走者であり、教え導く先導者ではありません。そのことをきちんと理解した上で、一人ひとりの意見を決して否定することなく尊重し、有意義なワークショップとなるように声掛けをします。どのような姿勢で臨むのか、どうしたら子どもたちの意見を引き出してあげられるのか等、ファシリテーターとしての在り方を学びましたが、介入しすぎず話し合いの場を作るという立場はとても難しいものです。研修では学生役と子ども役に分かれて、今年のテーマである「防災」についてのワークショップを行ないました。防災というテーマはとても範囲が広く、災害前の備えなのか、災害後の行動なのか、またはインフラ整備なのか、様々なケースが考えられます。実際にやってみることで、どこが難しいのか、ポイントとなることは何かが見えてきて、子どもたちとワークショップを行なうときに気を付けなければならないことがわかりました。

研修で得た知識や経験は、今後の学生生活や社会に出たときにも欠かせないものです。学生サポーターとしての活動のみならず、日頃から学んだことを意識して次に活かしていけたらと思います。

(学生サポーター 大学2年 川端 南実希)

### 学生サポーター研修の記録（2）

学生サポーターにとって、研修は欠かすことのできない活動です。この思いは、参加年を増すごとに大きくなっていきました。

子どもミーティングは子どもたちの意見表明の場です。それを子どもたちに達成してもらうのに、肝となるのがワークショップ。私たち学生サポーターは、そのワークショップで、ファシリテーターという「伴走者」の役割を担います。子どもたちの「伴走者」であること。それは参加して4年目になっても、見失いそうになったり、そもそも何なのか分からなくなります。それを確認したり、再発見できる場が研修です。この意味で、研修は重要な意味を持ちます。

それだけではありません。テーマの知識を得る場でもあります。私自身初めて知ることが多く、とても勉強になり、子どもの考えを引き出すヒントになったりします。

また、学生同士や関わっているおとなたちのことを知る機会でもあります。どんな思いで参加している人か、どんな考え方をしている人か。それをお互いに知ることによって、暖かく子どもを迎えられる、とてもいい雰囲気が作られます。その雰囲気が子どもたちの「楽しい」に還元されると感じています。

そして、今年は私たち学生自身で「築く」研修がキーワードでした。継続して参加している学生サポーターは、他の学生サポーターがより多くの「気づき」を得られるように…。戸惑った学生もいましたが、新たな視点を持てた1年だったと思います。

でも、実際に何ができるのか、これは多くの継続サポーターが持った疑問だと思います。そんな思いから、学生主催で自主研修も行ないました。すべての学生サポーターが、少しでも多くのことを考え、感じ、「気づけ」るようにするか、学生サポーターが試行錯誤し、成長したことの現れだと思います。

研修は、学生サポーターにとって、多くの時間を費やす活動です。子どものための活動をする準備段階であると同時に、学生サポーターの成長の場です。子どもミーティングの重要な要素であると、改めて実感しています。

（学生サポーター 大学4年 畑野 智子）



児童館職員と一緒に  
子どもについて考えました。



ワークショップの練習に  
頭を悩ませる学生サポーター。



防災課職員からは  
防災についての  
基礎知識を学びました。



## 学生サポーターより

学生サポーターの役割は、単に言われたことをこなせばよいという、受動的なものではありません。子どもたちを支えるには、自分で考え仲間と話し合い、自発的に、情熱を持って活動に取り組まなければならないのです。そんな情熱を持って子どもミーティングに関わってくれた学生サポーターの中には、継続して参加してくれている学生がたくさんいます。彼らは、今年初めて参加した学生サポーターにとってはもちろん、私たちにとっても非常に頼もしい存在でした。

ここでは、そんな学生サポーターのうち2名からコメントをいただいたのでご紹介します。

### 学生サポーターの情熱

#### 「私の情熱、学生サポーターの想い」

私の情熱——、人のためになれることを。学生サポーターの情熱——、子どものために。いかに子どもと一緒に楽しんだり考えたりして、場を共有していくか。それが学生サポーターの意義です。

みなさんはどのような立場であるとき、どのように子どもを見ていますか。また、子どもを一つの価値観で測っていないでしょうか。例えば親であるとき、先生であるとき、子どもを見る目は「舐める、教える」などの視線のみで見がちであるということです。

学生サポーターをする契機になったのは、今から1年前の5月、郵便受けに入っていた八王子市役所の広報が始まりでした。当時の私は子どもと接する経験もなく、したがって「子どもとは何か」という疑問を抱きながら今日まで2年間、学生サポーターを続けてきました。そして、今ならはっきりと言えます。子どもとは、私たちとは何も違いのない人間であると。一見、当然のように聞こえます。しかし「子どもを子どもとして」という枠でだけでしか見ていませんか。前書きに同様なことを述べました。つまり固定概念に捉われないようにするということです。そのことを確信したのは子どもミーティング本番のことです。子どもの雄姿による提言は誰もが感動を覚えたことでしょう。そこで1年目で感じた「子どもなのに立派な意見が言える。おとな顔負けの主張だ。」という考えを改め、2年目からは「子どももおとなと同様に一個人として見るべきではないのだろうか。」という信念で学生サポーターを務めました。「子どもらしい考えだね。おとなでも思いつかないよ。」などの考えをしないということです。

おとなと子どもといえば、責任や義務、権利などの有無だけではなく、知識量や経験値による差があります。「子どもだから」などという考えは、自分の考えの狭い枠の中でしか判断することしかできず、枠の外は否定することになります。「おとな」「子ども」、「先生」「生徒」などは後から付随する立ち位置であるだけです。その人（子ども）を知るために、人（子ども）と人（おとな）の距離を縮めることに、肩書という境界線というもののはわざわざ引く必要はないと思いませんか。子どもを、一人の人間として尊重すべきです。子どもが子どもミーティングで提言をしたとき、「子どもとして言います」と考えているでしょうか。「私が言います」という気持ちの方が断然強いはずです。

子どもがよりよい環境で育むためにたくさんの自己を伸ばす場所があることは八王子の良さです。その中でも子どもミーティングは、自分の力をチャレンジし新たな可能性を見出せる場としてとても良い機会です。学生サポーターはそんな子どもたちを支え導く役割を担います。学生サポーターとして子どもとどう向き合うのか、子どものためにできることは何かと今まで試行錯誤



してきました。ワークショップをやる際にファシリテーターとしてスキルを磨くことが必要である、自主研修を増やし学生サポーター同士の意志を確かめ合うなど、子どものために第一に活動してきました。

何を持っておとななのか、何を持って子どもなのか、そして人間は一人ひとり必ず良さがあるということ、どのような人でも尊敬できる一面を持っていることです。2年間、学生サポーターであった私が感じたことであり、学び取ったことです。学生サポーターとは究極的には人と人を紡ぐ役割なのかもしれません。子どもミーティングに参加できたことに感謝感激として、以上で私＝学生サポーターの情熱を終わりにします。ありがとうございました。

(学生サポーター 大学2年 野添 琢人)



### 4年間の活動を振り返って

私が学生サポーターを始めたきっかけは、仲間には言いにくいものでした。大学進学を機に八王子市の市民となり、一人暮らしを始めました。新しい生活への不安とわくわく感に、大学4年間を無駄にしないよう、でき得る限りのことに挑戦しようと思い様々なボランティア・アルバイトをしました。その中で、八王子市の子育て応援団 Bee ネット登録のために行った子ども家庭支援センターで勧められ、子どもミーティングの学生サポーターに参加することになりました。他のサポーターたちは自分で公募を見て応募したりとても意識が高いのに、私はたまたまで、しかも市主催のボランティアなんて、なんて就職活動時のネタによさそうだ！ということを考えて参加したものですから、いざ始まってみたらみんなの熱さに圧倒され、参加してしまっただけで申し訳ない気持ちでいっぱいでした。しかも大学の関係で、子どもたちと関わる時期は試験期間だったり、私は何の意味があってここに参加しているのか、自分に何ができていて、なにか成長しているのだろうか幾度となく悩み、不貞腐れることもありました。

私は学生サポーター2期から参加し、前年度は「子ども議会」でした。できたばかりの子どもミーティングに1年生で参加させていただいたのは本当に運が良かったと思います。研修を重ね、子どもにいかに伴走者として関わるか、体験教室ではどのようなことに気を付けるか、1年生の私にはハードな内容すぎて、市の方や先輩方の大きさに圧倒されてしまいました。同時にはやく一人前になりたいと思いました。1年生から参加したおかげで、来年はこうしようと経験を蓄積していくことができました。1年間では深すぎて、私にはよくわからないまま終わっていたと思います。

保育者を志していた私は、子どもと関わる経験や技術に自信がありました。しかし、学生サポーターは保育者でも先生でもありません。手遊びが得意でも子どもの意見は引き出せないのです。学生サポーターはよくもここまでと思うほど個性豊かで、全員が子どもの専門家を目指しているわけでもなく、学んできた内容も経験も年齢もバラバラなメンバーが毎年集まります。おそらく子どもミーティングがなければ出会うことはなかったでしょう。その個性豊かなメンバーは5月の終わりから一緒に研修を受け、子どもミーティングや子どもたちについて不安と期待を胸に活

動していきます。ワークショップで子どもたちは自分の考えをまとめたり、同じグループの考えを知り、意見を深めていきます。学生サポーターはファシリテーターとして考えが出しやすいように寄り添います。学生サポーターはサポーター同士協力して実りあるワークショップを目指します。もちろん上手くいくことばかりではなく、活動後の反省会は「あそこでああしていれば」「あそこでこう言われるとは」など反省が止まらなくなります。私も100点満点満足できる結果になったことは4年間で1度ありません。しかし、だからこそ子どものことをもっと考えたり、研修に真剣になったり、もっと頑張ろうと思うのだと思います。研修や活動の後、反省会の続きや話したり足りないことを、ご飯を食べに行った先で話したり、集まって相談したり、電話したり、自主研修をしたり、夜遅くまで話が終わらないことなどいつもでした。みんなが子どもミーティングをより良いものにしたいと思っているから、どんどん熱くなりました。熱くなりすぎて意見が割れたり、市の方に言われて気づきあわてて冷静になったり、この文章を書きながら泣きそうになるほど楽しかったです。

違う環境にいた学生サポーターたちは5月末に始まり、本当は文集作成の11月までの期間限定の仲間です。キャンプネーム（自分の呼ばれたい名前）で呼び合い、学校も学年も年齢も性別も関係のない集団を築きます。たくさんの研修だけではなく、飲み会や遊びに行く企画によってどんどんお互いのことを知り仲良くなっていきます。今までの交友関係とも大学の友人とも違う、特別で大切な仲間ができました。また、市の方々と話をする中で、進路の相談に乗っていただいたり、恋愛の話をしたり、今後の人生について悩む大学生のときに先輩とたくさん話ができただけことは本当によかったと思います。自分の未熟な部分を知り、たくさんのことを教えていただきました。行政に興味を持てたのも、実際に働いている方々の話を聞いたことが大きいと思います。

たくさん話をして、情報共有をして、お互いを活かし補えたのは、信頼関係を築けたからだだと思います。だからこそ協力できるし、本気で意見を言い合いぶつかり合えるのだと思います。学生サポーターが集まると、ふざけあったり、ふとすると真面目な話し合いが始まっていたり、とても熱い集団だと思います。一生の仲間に出会えたことにとても感謝しています。

子どもの意見表明権のため、子どもミーティングも、学生サポーターもずっと続けていってほしいと思います。この活動はたくさんの方々の熱い思いと努力によって行なわれています。たった4年間この活動に関わっただけですが、その片鱗に触れることができたことは今後の人生にとってとても有意義なことだと思います。子どもミーティングに参加した小学5年生から中学3年生までの子どもたちのなかにも5年間参加した子がいます。今度は学生サポーターとして子どもミーティングに参加したいと言っています。それを聞いて私はうれしくなりました。そして、この子たちが帰って来られるように、たくさんの子どもの意見を発表する機会が持てるように、ずっと子どもミーティングを子どもに沿った形で行なっていただきたいです。毎年子どもも学生サポーターも変わり、異動などで職員の方も変わります。今年は市長さんも変わりました。子どもミーティング自体も中身は年々変化していていると思います。その変化が、柔軟なものであり、子どもに良いものであるようお願いしたいと思います。

子どもミーティングに参加できて本当によかったです。本当にありがとうございました。子どもミーティング大好き！！八王子大好き！！

（学生サポーター 大学4年 小松 詩歩）

## 13. 防災課からメッセージをいただきました

今回の子どもミーティングのテーマは「防災」ということで、日頃より八王子市の防災に取り組んでいる防災課と一緒に、子どもミーティングの活動を行ないました。

防災という幅広く難しいテーマの中、防災課職員は子どもたちに防災への理解を深めてもらおうと、様々な準備を行ないました。子どもたちに防災を身近に考えてもらおうと、「体験教室」で体験する内容を考え、防災課職員総出で「体験教室」の準備・実施に取り掛かりました。そうして実現した様々な体験学習に、子どもたちは大きな関心を示し、普段あまり意識しない「防災」に対する提案へのヒントを得ました。また、「事前学習会」では、防災の総括的なお話や、提案へのアドバイスをいただきました。

こうして実現した今回の、『テーマ「防災」の子どもミーティング』にプログラム作りから提案作成まで携わっていただいた防災課職員よりメッセージをいただいたのでご紹介します。



### 防災課 小島 昭仁

防災で一番大切なのは、「自分の身は自分で守る」という自助の考え方。しかし、それだけでは、子どもミーティングにならないなあ…。というのが、今年のテーマを最初に聞いたときの思いでした。

防災については、子どもの頃から考えてもらうことは大切と思っていましたし、東日本大震災を受けてタイミングとしては申し分なかったのですが、防災は幅が広いうえに、子どもたちに実際の災害を経験してもらう訳にもいかず、どうやって理解してもらい、意見を考えてもらうかが難しかったところです。

でもそこは、子どものしあわせ課の担当者の子どもたちへの想いと、この事業を成功させたいという熱意に助けられ、地震体験車やろ水機を使った体験学習では、みんな目を輝かせて楽しそうに学んでくれたし、市の備蓄品などに理解を示してくれたので、防災課総員で対応した甲斐があり、大変うれしく感じました。

また今回、子どもミーティングに携わってみて、非常に重要と感じたのは学生サポーターの存在です。子どもたち以上に何回にもわたって、子どもとの接し方やミーティングの進め方を学び、また、自分たちだけで話し合っている姿をみて大変感心するとともに、その指導にあたった児童館職員も子どもや学生サポーターに親身になって対応していて頭が下がる思いでした。

子どもミーティング本番の意見発表では、ワークショップで学生サポーターと一緒にまとめて自分の意見を思い思いに語ってもらいましたので、子どもの視点ならではの提案をできる限り受け止め、今後活かしていきたいと考えています。

最後に、今回の子どもミーティングをきっかけに、関わった皆さんがこれからも防災を考え、いざというときに自分や地域を守る人材として活躍していただくとともに、たくさんの人との出会いを大切にして今後の生活を送っていただくことを期待しています。

## 14. 子どもの意見表明のための児童館職員の関わり

今年度の子どもミーティングは、昨年に引き続き児童館職員が関わって実施されました。

なぜ児童館職員が子どもミーティングに関わっているのか。それは、児童館職員が子どもの“居場所”として、また“自己表現の場”として、日常的に様々な取り組みを行なっているからです。児童館は、単なる遊び場の貸し出し施設ではありません。児童館職員は、日々子どもたちとの関わりの中で子どもたちとの関係づくりを行ない、子どもたちに寄り添い、安心して過ごすことのできる居場所づくりに努めています。また、子どもたちの自主性を尊重し、子どもたちが主体的に取り組む企画事業への支援を行なっています。



「わくわくシティ」の様子。

子どもが実行委員の一員となり、職員や地域の方々とイベントを作り上げます。



児童館でのバンド練習の様子。

合宿での練習の場や、ライブでの発表の場を設けています。



児童館で行なわれた「プロが教えるダンス

テクニック」。この講座で児童館を知り、後日ダンスの練習にくる参加者も。



大学生と子どもたちとの関わり。

児童館では、大学生ボランティアの育成と活動も活発に行なわれています。

上に挙げた事業のほかにも、子どもたちが自己表現をしたり、自分たちで作り上げるイベントが児童館にはたくさんあります。このように、子どもの居場所となり子どもに寄り添い、子どもの主体性を尊重して日々子どもに関わっている児童館職員の協力は、子どもの意見表明権を具体的に体现する子どもミーティングの実施には欠かせませんでした。児童館職員は、子どもの活動支援のプロとしての立場から、子どもに関わる学生サポーターの育成、子どもたちが無理なく参加することのできるプログラムづくり、子どもたちが自主的に提案を考えられる環境づくり等、様々な面で子どもミーティングを支えてきました。

ここで本誌の最後に、今年度の子どもミーティングに取り組んだ2名の児童館職員からのメッセージをご紹介します。



## 児童館職員からのメッセージ

南大谷児童館 遠藤 淳見

輝く子どもたち ～考え、提案する力～



「市長と教育長の前で自らの意見を提案すること。」

これが、参加する子どもたちにとっての子どもミーティングでの最終目標です。

8月26日の本番当日、子どもたちは八王子市のトップである市長と教育長2人の前で、それまでの経験と知識に加え、事前学習とワークショップを通して気付いたことや学んだことをもとに考えをまとめ、しっかりと意見を提案していました。

子どもミーティングは、子どもの権利条約にある「子どもの発言」「子どもの社会参加」への具体的な取り組みとして行なわれているのですが、私たちおとなでもなかなかできないようなトップへの直接の意見表明を、小学生や中学生でできることはうらやましい限りです。一方で、私自身が子どもだったときのことを思い起こすと、短い期間の中で意見をまとめ、しっかりと発表することができている姿には頼もしさを感じました。

さて、この事業を行なう上で重要な役割を果たしたのは学生サポーターです。オリエンテーション、事前学習、ワークショップの際には、子どもたちと学生が交わり、楽しみながら防災について学び、考えていました。実際に子どもたちが活動をしたのは3日間ですが、学生たちは子どもたちとどのように関わっていけばよいのか、子どもたちが意見を発表するという目標に向かって学んだり考えをまとめたりする際、どのようにサポートをしていけばよいのかということを、事前に何度も集まり、意見を出し合って考えていました。また、当日の役割分担等、運営を担ったのも学生サポーターでした。このように、学生たちは“考え、提案しあい”、子どもミーティングが子どもたちにとってより良いものとなるようにサポートをしてくれました。

学生を子どものうちに含めるのはおかしいですが、提案をした子どもたちと年齢的に大きく変わらず、この数年で子どもからおとなへとステップを駆け上がってきた彼らが考え、サポートをし、そして、この事業の主役である子どもたちが、そのサポート受けながら実際に考え、自分の言葉で提案をした子どもミーティングは、“考え、提案する力”を結集したものであったと思います。そして、何より、子どもの社会参加の場として“輝く子どもたち”の場であったと思います。

中野児童館 子ども支援ワーカー1級 井垣 利朗



### 「子ども参画」～私たち大人ができること～

子どもの権利条約の「子どもの意見表明権」をご存知ですか？

この「子どもの意見表明権」とは、子ども自身が「自己決定を行なうこと」「自己の意見を表明すること」と言えるのではないのでしょうか。

子どもが「自己決定を行なうこと」「自己の意見を表明すること」を推進する際に必要なことは何か。それは、子どもの「主体性」です。

その「主体性」のある活動の一つに子どもの「遊び」があります。

子どもに「遊び」を提供し、子どもの居場所である児童館職員は、児童館で「子どもの参画」を推進してきました。子どもに寄り添い、子どもが「自己決定を行なうこと」「自己の意見を表明すること」ができる事業に取り組んでいます。

その経験を活かし、私は今回の子どもミーティングの学生サポーターの研修や子どもの活動についてアドバイス、コーディネートをさせていただきました。

では、コーディネーターは、私たちのような子どもに携わるおとなだけが行なうものなのでしょうか。答えは「ノー」です。

家庭、地域などで接するおとなすべてが、そこにいる子どもの姿を捉え、寄り添っていくことができればいいのです。

子どもミーティングでは、学生がサポーターとしてそのことを体現してくれました。サポーターの力によって、参加した子どもが地域社会の一員として自分の意見を主張し、仲間の意見に耳を傾けることができました。

では、地域のおとなが、今からできることを考えてみましょう！

- ① 子どもの前では、笑ってみませんか！
- ② 子どもが発言するときは、最後まで聞いてみませんか！
- ③ 子どもが考えているときは、じっくり待ってみませんか！

### 子ども参画の主体的リーダーに！

最後に、今回の子どもミーティングに参加してくれた子どもたち、そして学生サポーターの皆さん！

あなたたちは、子どもの社会参加を推進するリーダーです。リーダーの自覚を持って、自分の住む地域で、子どもは自分の言葉を遠慮なく伝え、おとなは寄り添うことのできる八王子のまちづくりをどうぞよろしくお願いします。信じていますよ！

## 15. 名簿 (五十音順)

### 平成24年度子どもミーティング参加者

小学生      栗沢 尚也  
              小原 歩  
              竹之内 実

中学生      井川 哲  
              江原 夏美  
              岡松 めい子  
              落合 真帆  
              小原 怜  
              工藤 瞳  
              車田 拓夢  
              雑賀 聖  
              佐々木 茜  
              佐藤 千聖  
              佐藤 優花  
              嶋崎 康介  
              高木 涼花  
              津田 和奏  
              中川 貴就  
              永見 拓哉  
              橋本 咲帆  
              伴 風樹  
              平野 孔太郎  
              山中 美幸

### 学生サポーター

稲葉 麻衣子  
上野 夏美  
上野 真弓  
梅田 紗希  
笠原 萌花  
粕谷 幸代  
金澤 優希子  
河瀬 昌昭  
川端 南実希  
工藤 祐輔  
小松 詩歩  
齊藤 由起  
齊藤 良平  
酒巻 由佳  
清水 結子  
白鳥 幸恵  
高井 美貴  
玉城 雪乃  
土屋 大輔  
野添 琢人  
畑野 智子  
松田 ありさ  
森田 安紀子  
安野 果歩  
山崎 航  
吉野 弘敏

## 子どもミーティングに協力していただいた方々

### オリエンテーション&体験教室

市立第四中学校

生活安全部 防災課

道路事業部 管理課 中村 浩久

(被災地支援活動報告)



### 学習会(所管課ヒヤリング)

生活安全部 防災課

財務部 建築課



### 子どもミーティング

市長

石森 孝志

教育長

坂倉 仁

生活安全部長

荒木 紀行

学校教育部長

野村 みゆき



### 写真提供

学生サポーター 齊藤 良平

総合政策部 都市戦略室 広報担当





**平成24年度  
はちおうじ子どもミーティングの記録**

発行 八 王 子 市

平成24年12月

編集 こども家庭部子どものしあわせ課

〒192-8501

東京都八王子市元本郷町三丁目24番1号

TEL 042-620-7391(直)

FAX 042-627-7776

E-mail b082600@city.hachioji.tokyo.jp